

目次

第2章 JAWS-UG とは？	7
2.1 JAWS-UG と 支部について	7
2.2 JAWS-UGの歴史	8
2.3 まとめ	9
第3章 IoT専門支部	12
3.1 IoT専門支部って？	12
3.2 IoT専門支部の歴史	12
3.3 IoT専門支部の今後	13
3.4 さいごに	13
第4章 朝から爽やかに～目覚めに学ぶJAWS-UG朝会	15
4.1 JAWS-UG 朝会のはじまり	15
4.2 JAWS-UG 朝会の初回 = S3「10周年」の当日	15
4.3 メディアも注目! JAWS-UG 朝会リブート!!	16
4.4 JAWS-UG 朝会には、多様な発表と多様な参加者が	16
4.5 ラジオ体操で目覚めスッキリしながら学ぼう	16
第5章 Education-JAWSの紹介	18
5.1 Education-JAWSについて	18
5.2 Education-JAWSの活動内容	19
5.3 さいごに	19
第6章 Gov-JAWSの概要	20
6.1 なぜ公共でクラウドなのか?	20
6.2 公共分野の専門支部が必要な理由	20
6.3 Gov-JAWSが目指すもの	21
6.4 Gov-JAWSの運営	22
6.5 勉強会について	22
6.6 勉強会開催実績	22

第7章 JAWS-UG 彩の国埼玉支部とは？	24
7.1 彩の国埼玉支部の支部コンセプト	24
7.2 彩の国埼玉支部のロゴについて	24
7.3 イベント開催実績	25
7.4 最後に	26
第8章 佐賀支部の紹介	28
8.1 参加方法	28
8.2 佐賀支部の歴史	28
8.3 佐賀支部の特徴	29
8.4 過去に開催したイベントについて	29
第9章 転職にも良く効く CLI 専門支部	31
9.1 10年経っても陳腐化しないAWS知識	31
9.2 CLIでのAPI知識は転職によく効く（通称「JAWS-UG 転職支部」）	32
9.3 CLI専門支部の最近の活動	32
第10章 JAWS-UG 情シス支部とは？	34
10.1 JAWS-UG 情シス支部が生まれたきっかけ	34
10.2 こんな人におすすめ	34
10.3 Before 2020, and after	35
10.4 それなら、地方で情シス支部をしよう！	36
10.5 おわりに	37
第11章 JAWS-UG クラウド女子会とは？	38
11.1 クラウド女子会の参加者	38
11.2 開催場所、タイミング	39
11.3 2025年の活動	39
11.4 クラウド女子会はこんな人におすすめ	40
11.5 おわりに	41

第12章 はじめての人でもそうでない人にも来てほしい初心者支部をすすめたい	42
12.1 初心者支部はいいぞ	42
12.2 JAWS-UGへの参加	42
12.3 LTのハードルも個人的には低め、アウトプットするにはまさにうってつけ	42
12.4 JAWS-UGの懇親会は絶対に参加してほしい	43
12.5 将来的には他の支部へ	43
12.6 迷ってるなら始めるのみです	43
第13章 JAWS-UG Sales支部とは？	44
13.1 初心者でも楽しく参加できるポイント	44
13.2 イベント内容と支部の雰囲気	45
13.3 おわりに - 初心者こそSales支部へ！	45
第14章 東京支部のススメ	47
14.1 東京支部リブート	47
14.2 ランチタイムLT会	47
14.3 特產品	48
14.4 昔話: 4人集まらない呪い	48
14.5 さいごに	48
第15章 JAWS-UG 栃木支部にお越しください	50
15.1 これまでのJAWS-UGとのかかわり	50
15.2 JAWS-UG 栃木支部立ち上げの経緯	51
15.3 JAWS-UG 栃木支部の特徴	51
15.4 2025年の活動実績	52
第16章 JAWS-UG 新潟支部の紹介	54
16.1 活動内容	54
16.2 なぜ新潟支部？	55
16.3 さいごに	55

第17章 NW-JAWSのススメ	57
17.1 NW-JAWSとは	57
17.2 初心者向けにおすすめポイント	58
17.3 NW-JAWSの特有のワード紹介	58
17.4 さいごに	59
第18章 福岡支部について	61
18.1 支部の特徴	61
18.2 主な活動内容	62
18.3 過去のイベント例	62
18.4 参加方法	62
第19章 私のコミュニティ活動と Education-JAWS	64
19.1 登壇したきっかけ	64
19.2 初心者にも温かいコミュニティ	64
19.3 Education-JAWSは将来の技術者を育てる場	65
19.4 さいごに	65
第20章 実践的なTipsが盛りだくさん！ JAWS-UG CDK支部のすすめ	66
20.1 AWS CDKとは?	66
20.2 どんなイベントをやってるの?	66
20.3 おすすめLT/セッション	67
20.4 さいごに	68
第21章 JAWSは怖くないよ！初心者支部のすすめ	70
21.1 初心者支部とは?	70
21.2 JAWS-UGとの出会い	70
21.3 勉強会の参加を重ねて	71
21.4 人生初登壇を迎えて	71
21.5 おわりに JAWSは怖くない！	71
第22章 歴史を知る機会になる！ Storage支部	73
22.1 Storage支部とは?	73
22.2 歴史に思いを馳せることができる	73
22.3 専門支部、怖くなかった！	73

第23章 社会人一年目がオススメする JAWS-UG DE&I支部	75
23.1 DE&I支部とは	75
23.2 どういったイベントがあるのか	75
23.3 オススメポイント	76
23.4 さいごに	77
第24章 JAWS-UG 横浜支部で人生初の LT 登壇を経験して	78
24.1 初めての登壇までの道のり	78
24.2 10年の歴史を持つコミュニティの温かさ	79
24.3 素晴らしい開催環境	79
24.4 継続的な学びの場	79
24.5 初心者の方へのメッセージ	80
第25章 JAWS FESTA & JAWS DAYS 参加レポート	81
25.1 JAWS FESTA とは?	81
25.2 JAWS DAYS とは?	82
25.3 思い出を話す前に	82
25.4 JAWS FESTA 2024 in 広島での思い出	82
25.5 JAWS DAYS 2025での思い出	84
25.6 JAWS FESTA 2025 in 金沢での思い出	84
25.7 まとめ	85
第26章 番外編：JAWS-UGの従兄弟？E-JAWS とは	87
26.1 E-JAWS に参加する意義	87
26.2 E-JAWS 活動内容	88
26.3 分科会について	89
26.4 E-JAWS のグランドルール	91
26.5 E-JAWS コミッティについて	91
26.6 おわりに	91

第1章

はじめに

この本は、Japan AWS User Group 略して JAWS-UG の運営メンバー、参加者による JAWS-UG に関する参加レポート、支部紹介本です。

JAWS-UG とは AWS (Amazon Web Services) が提供するクラウドコンピューティングを利用する人々の集まりであり、No Sale、No Job を掲げる、AWS に関する情報交換、勉強を促進するコミュニティで、ほぼ毎週何かしらの勉強会がオンライン、オフラインにて開催されています。

沢山のコンセプトを掲げた 60 個以上の「支部」によって独立して運営されており、様々な特色があります。正直、全支部に参加して、自分に合う支部を見つけたり、支部の説明ページをすべて読み比較検討をするのはとても大変だと思います。

そのため、1 冊の本書で比較していただき、AWS のコミュニティ参加の一歩目、二歩目についてとっかかりになれば嬉しいです。

1.1 免責事項

本誌は 2025 年 12 月現在の内容になります。

1.2 本書に関する問い合わせ

各支部に興味のある方は、各支部の Connpass 経由や、執筆者、運営メンバーに問い合わせてくださいても大丈夫ですが、本書全体の内容に関しては編集者である、初心者支部(<https://jawsug-bgnr.connpass.com/>) 石原まで何かありましたらご連絡ください。

X(Twitter)に普段生息しておりますので、Xが確実です。

X: takano0131

第2章

JAWS-UG とは？

高野(石原晶子)

AWS (Amazon Web Services) を利用、または興味を持っている人たちが集まり、学び、交流することを目的とした日本最大の AWS ユーザーコミュニティ JAWS-UG (Japan AWS User Group) について説明します。

2.1 JAWS-UG と 支部について

JAWS-UGは、一人ではできない学びや交流を目的としてボランティアによる勉強会の開催や交流イベントなどを行なっています。AWSの公式のユーザーグループで、ユーザー主導で活動しています。

コミュニティ活動の基本ポリシーは「No sell, No Job」であり、イベントの趣旨と関係のない宣伝行為・採用活動・ネットワーキングのみを目的としたご参加はご遠慮いただくことが参加の条件となっています。参加者にとって安心、安全な運営を心がけています。

現在エリア別、目的別に運営される 60 以上の JAWS-UG の支部により、勉強会・イベントが開催されています。

2.1.1 専門支部

専門支部は、目的別に AWS の特定のサービス、技術分野、あるいは参加者の属性に沿った活動をする支部です。深く掘り下げた専門知識の共有や、近しい属性の参加者の交流が可能です。

特定のサービスや技術の専門支部には AI/ML 支部、CLI 専門支部、コンテナ支部、IoT 専門支部などがあり、参加者の属性では初心者支部や情シス支部、クラウド女子会などがあります。

2.1.2 地域支部

地域支部は、日本各地のエリアごとに活動する支部です。地元の AWS ユーザーが気軽に集まり、情報交換や交流ができる場を提供しています。これにより、全国どこでも AWS のコミュニティに参加できる機会が生まれています。

東京支部や福岡支部など、日本全国各地に 40 以上の地域支部があります。

2.2 JAWS-UGの歴史

数多くの支部が独自に運営をし、様々な大規模イベントも開催しているJAWS-UGですが、もちろん最初からこの形態ではなく、様々な人の尽力により、大きなユーザーグループへと進化しています。

2.2.1 JAWS-UGのはじまり

JAWS-UGは2010年2月23日に最初のキックオフイベントが開催されたことで産声を上げました。キックオフイベントは「第0回 AWS User Group Japan 勉強会」¹のタイトルで開催され、100名以上の参加者と、Amazon Web ServicesのエンジニアであるJeff Barr氏をゲストに迎え、JAWS-UGの生みの親である小島英揮氏が「デベロッパーコミュニティの拡充」「AWS東京オフィスの人員拡充」を軸にし、コミュニティ活動への注力、今後の予定を参加者に紹介しました。

その後、記念すべき第1回 JAWS-UG 勉強会が2010/4/6に開催されました。参加者レポート²によると、会場は150名にもかかわらず満席だったとのことで、AWSへの関心度の高さと、JAWS-UGへの期待度が感じられます。

2.2.2 JAWS-UGの更なる広がり - JAWS DAYS

キックオフイベントを皮切りに2010年には定期的にJAWS-UG 勉強会が開催されるとともに、名古屋、大阪、福岡、仙台で地域支部が設立され、その後全国に広がっていきます。

2011年3月に待望の東京リージョンが開設され、そのタイミングに合わせて各地のJAWS-UGリーダーが一同に集まる JAWS Summit、JAWS-UG全国理事会が3月4日(金) 秋葉原にある富士ソフト秋葉原ビルで開催されました。³

このイベントは、発足当時はAWS Japan (旧ADSJ) が主導となり開催しておりました。現在は「JAWS DAYS」に名称を変え、JAWS-UG主催、AWS Japan後援の形で 年1回3月に開催されています。

2.2.3 JAWS-UGの更なる広がり - JAWS Festa

コミュニティ主導で JAWS DAYS を開催したい、という支部リーダーの一人であった吉田真吾氏⁴の話から始まり、東京以外での秋開催、地方都市カンファレンス「JAWS FESTA」の名称で、2013年に開催されました。

記念すべき2013は「JAWS FESTA Kansai 2013」⁵なんと、京セラドーム(ライブとして使われる際は55,000人のキャパシティの大規模会場！)での開催です。参加者600人以上、懇親会200人以上の大規模なイベントでした。

地方でも大規模なイベントが開催できる実績ができたことで、全国の地方支部の人たちが、自分の地域でもできるという自信につながり、地方支部の盛り上がりの一役を担うイベントの位置づけとして、現在でも秋に「JAWS FESTA」を毎年（※2020-2022は新型コロナの影響で非開催）開催しております。

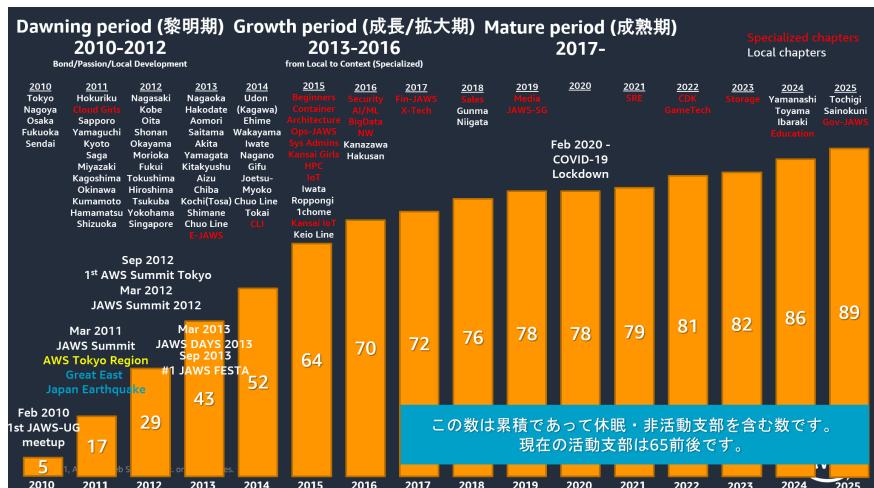
JAWS FESTA の開催地は毎年挙手制で、複数の支部が挙手を行った場合には JAWS-UG 運営コアメンバーによる投票にて開催地域が決定します。

2.2.4 JAWS-UGの更なる広がり - オンライン開催

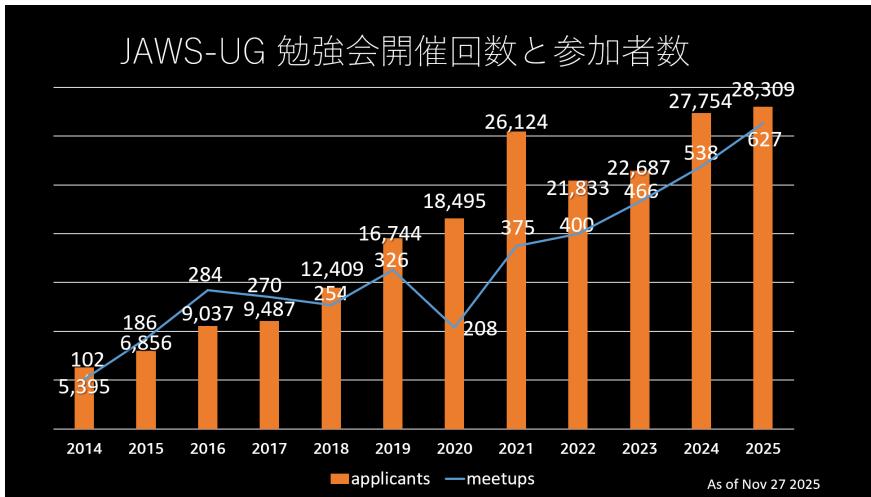
2018年から目黒にあるAmazonオフィスのセミナールームがオーバーフローするほどの参加申し込みがあることから、オンライン、オンライン両方参加できるハイブリッド勉強会開催支援⁶を AWS Japan ユーザーコミュニティプログラムマネージャーの沼口繫氏がおこなっておりました。その後、新型コロナの流行を皮切りに、非対面開催の勉強会の需要の増加、そして2020年のオンライン開催 JAWS SONIC 2020 / MIDNIGHT JAWS 2020 の「配信班」⁷の発足を皮切りに、JAWS-UG 配信部が発足、各支部勉強会のオンライン開催の支えになり、開催頻度の増加に貢献しています。

2.3 まとめ

このように定期的な年2回の大規模イベントでの盛り上がり、各地方支部、各専門支部の勉強会のたくさんの開催により、2014年にはJAWS-UGの支部が50を超える。2025年現在は60以上の支部が活動しています。



年間勉強会の視点では、2015年には200回超え、2018年には年間勉強会申し込み者数10000人超え。2025年の11/27現在は、申し込み者数28309人！勉強会開催数627回！と、参加者側からすると、選び放題、学び放題な状況だと思います。



支部運営側としても、自分が興味のある勉強会の開催を行うことができ、参加者とともに学んでいけることで、日々楽しく過ごしております。

年々大きくなる、JAWS-UG、自分に合う支部やイベントを見つけ、より良いAWS学習ライフを楽しんでみませんか？

著者、監修紹介

**高野（石原晶子）**X : <https://x.com/takano0131>Qiita : <https://qiita.com/takano0131>所属 : [JAWS-UG 初心者支部](#)

2025 AWS All Certifications Engineer

すきなもの : Transit Gateway フローログ、同人誌書くこと

**沼口繁**X : <https://x.com/numaguchi>

AWS Japan ユーザーコミュニティプログラムマネージャー

-
1. [https://www.publickey1.jp/blog/10/amazon_5.html ↵](https://www.publickey1.jp/blog/10/amazon_5.html)
 2. [https://blog.dateofrock.com/2010/04/1-aws-user-group-japan.html ↵](https://blog.dateofrock.com/2010/04/1-aws-user-group-japan.html)
 3. [https://iret.media/1774 ↵](https://iret.media/1774)
 4. [https://yoshidashingo.com/entry/20131003/1380757995 ↵](https://yoshidashingo.com/entry/20131003/1380757995)
 5. [https://jfk2013.jaws-ug.jp/ ↵](https://jfk2013.jaws-ug.jp/)
 6. [https://note.com/s_numaguchi/n/n7b7c2e5c77b6 ↵](https://note.com/s_numaguchi/n/n7b7c2e5c77b6)
 7. [https://techblog.forgevision.com/entry/jawssonic2020-01 ↵](https://techblog.forgevision.com/entry/jawssonic2020-01)

第3章 IoT専門支部

立石 彰

3.1 IoT専門支部って？



IoT専門支部は、その名の通り IoT 関連の話題を専門に扱う JAWS-UG の支部です。では「IoT」って何でしょうか？

IoTの歴史はとても古く、その基盤の一つであるセンシング技術は電子回路の登場と共に生まれ、発展してきました。また IoT の要とも言えるインターネットにおいても、早い時期から「モノ」との接続が強く意識されていました。有名な「トロイの部屋のコーヒーポット」¹は1993年にインターネットに接続されており、1998年4月にはコーヒーポットとの通信を定義するプロトコル "HTCPCP" (Hyper Text Coffee Pot Control Protocol) の実装が提案²されているほどです。

IoT専門支部はその流れを汲み、センシングから通信、クラウドやデータ可視化など、IoTに関係する幅広い技術分野を取り扱う異色の専門支部です。JAWS-UGの一部として活動していることから、少なくとも話題の一部にはAWSが関係していることを意識して話題の選定を行っています。そこが他のIoT関係コミュニティとは異なる点でしょうか。

3.2 IoT専門支部の歴史

AWS IoTは10年前、2015年10月8日に誕生しました。IoT専門支部では10周年を記念して2025年10月8日にこれまでの歩みを振り返るイベントを開催³しています。イベントの模様は[アーカイブ](#)が公開されていますので、是非ご覧ください。

実はIoT専門支部の歴史はAWS IoTの誕生よりも前のことでの、記念すべき最初のイベント「もくもく IoT カフェ」は2015年6月23日⁴に開催されました。これはAWS IoT誕生の3ヶ月以上前のことでの、AWS IoTを支える技術の多くが普及する前のことでした。通信環境や開発環境も、今から思えば驚くほど貧弱なもので、そんな中でもIoTの普及を図ろうとする当時のJAWSメンバーの強い想いに支えられた門出となりました。

イベントで用いられたのはintelがIoTデバイスとして鳴り物入りでリリースした「Edison」⁵でしたが、巨人intelであってもこの市場の攻略は困難でした。先発のArduino⁶やRaspberry Pi⁷に対抗することはできず、2017年に製造終了となってしまいました。

3.3 IoT専門支部の今後

IoT専門支部も、同様に時代の波に押されて幾度かの低空飛行を経つつ、現在に至りました。

Edisonの撤退に象徴されるハードウェアの急速な進化に加え、AWS IoTにおいてもサービスの改称や再編、技術の進歩に対応するためのアップデート、逆に必要性が低下したサービスの廃止などが行われてきました。IoTにとっての血液とも言える通信環境についても日々進化が続いている。

産業全体を見ると、「IoT」という考え方や概念は広く理解されるようになり、結果として「IoT」そのものが注目を浴びることは少なくなっていました。言い換えると、世の中のほとんど全てが IoTを前提として 構築される世の中になってきています。つまり、分野を問わない全ての技術者がIoTを理解しなければならない、IoTを理解してから全てが始まる、という世の中が到来しようとしています。

とても重要だが、目立たず、変化が早い。それが現在の「IoT」技術です。IoT専門支部では、このような外部環境の変化に対応しつつ、また生成AIのような新しい技術も視野に入れながら、初心者には気軽に楽しめる入り口を、初級者にはレベルアップを目指すきっかけを、そして中級者・上級者には更なる高みを目指すお手伝いを続けていきます。

3.4 さいごに

IoT専門支部では、地方支部や他の技術専門支部とのコラボレーションを強化する活動を開始しました。IoT専門支部と一緒にイベントを企画・開催してくださる支部や個人の方、ぜひお声掛けください。またイベントについては用意でき次第

connpassに掲載、参加者募集が行われます。多くはオンライン・オフラインのハイブリッド開催となっておりますので、ご都合のよろしい方法で奮ってご参加ください。

ご興味のある方はぜひ Facebookのグループ JAWS-UG専門支部 や connpassイベントページにご参加、ご登録ください！

著者紹介

立石 彰 (TATEISHI, Akira)

X : https://x.com/greennote_akira



Qiita : <https://qiita.com/akira-greennote>

Facebook : <https://www.facebook.com/akira.ignote>

AWS Builder Center:

<https://builder.aws.com/community/@akiratat>

所属 : JAWS-UG IoT専門支部

2020~ AWS Community Builder (Serverless)

今力を入れてること：本業（零細企業の何でも屋 兼 経営者なので……）

すきなもの：AWS IoT / CDK / CLI / オリックス・バファローズ

-
1. [https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%88%E3%83%AD%E3%82%A4%E3%81%AE%E9%83%A8%E5%B1%8B%E3%81%AE%E3%82%B3%E3%83%BC%E3%83%92%E3%83%BC%E3%83%9D%E3%83%83%E3%83%88 ↩](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%88%E3%83%AD%E3%82%A4%E3%81%AE%E9%83%A8%E5%B1%8B%E3%81%AE%E3%82%B3%E3%83%BC%E3%83%92%E3%83%BC%E3%83%9D%E3%83%83%E3%83%88)
 2. [https://www.rfc-editor.org/rfc/rfc2324 ↩](https://www.rfc-editor.org/rfc/rfc2324)
 3. [https://jawsug-iot.connpass.com/event/367418/ ↩](https://jawsug-iot.connpass.com/event/367418/)
 4. [https://jawsug-iot.connpass.com/event/16452/ ↩](https://jawsug-iot.connpass.com/event/16452/)
 5. [https://www.intel.co.jp/content/www/jp/ja/products/sku/84572/intel-edison-compute-module-iot/specifications.html ↩](https://www.intel.co.jp/content/www/jp/ja/products/sku/84572/intel-edison-compute-module-iot/specifications.html)
 6. [https://blog.arduino.cc/2021/12/09/one-board-to-rule-them-all-history-of-the-arduino-uno/ ↩](https://blog.arduino.cc/2021/12/09/one-board-to-rule-them-all-history-of-the-arduino-uno/)
 7. [https://www.raspberrypi.org/about/ ↩](https://www.raspberrypi.org/about/)

第4章

朝から爽やかに～目覚めに学ぶJAWS-UG朝会

波田野 裕一 (tcsh)

4.1 JAWS-UG 朝会のはじまり

JAWS-UG 朝会は、朝 7:30 から AWS の勉強会を行う、「開催時間」に特化したちょっと「特殊な専門支部」です。（ランチミーティングに特化した「六本木一丁目支部」が後に立ち上りましたが、現在休眠中です。）

JAWS-UG 朝会の Connpass ページ: <https://jawsug-asa.connpass.com/>

JAWS-UG 朝会が立ち上ったのは、CLI 専門支部でハンズオンをやっていた波田野に、知り合いの AWS ソリューションアーキテクト(SA)さんが、「波田野さん、会場用意するので、AWS のオフィスで朝からハンズオンしませんか?」とお声掛けしてくださったのがきっかけでした。

4.2 JAWS-UG 朝会の初回 = S3 「10周年」の当日

JAWS-UG 朝会の記念すべき第1回は、S3 の「リリース 10周年」(当時)を迎える 2016 年 3 月 14 日。目黒の AWS ジャパン様のオフィスで、S3 を使ってクラウド デザインパターン(CDP)を意識した 3 つのハンズオンをやりました。東京リージョン(ap-northeast-1)は、日付変更線の関係で世界中で 2 番目に朝が来るため(一番は 1 時間差でシドニー(ap-southeast-2))、せっかくだから世界で最初に S3 「10周年」のお祝いしようということになり、早朝にも関わらず 27 人の定員が満席になりました。当日は、AWS ジャパン様から「特製 S3 10周年ケーキ」もふるまわれ、大変な盛り上がりとなったのでした。

その後、毎月開催のペースで 2016 年年末まで、主に Lambda を使ったハンズオンを定期的に実施しましたが、SA さんのご家庭の事情(お子様の誕生)とともに休眠状態になりました。

4.3 メディアも注目! JAWS-UG 朝会リブート!!

そんな朝会が復活したのは、コロナ禍の2020年でした。JAWS-UGとも関係の深い大谷イビサさん(ASCII.jp編集長)が、Facebookで「夜は殺人的スケジュールでイベントに行けない」と嘆いたところへ、札幌支部の三浦一樹さんが「オンライン朝開催の需要が...」と反応し、波田野が「JAWS-UG朝会、復活ですかね...」と絡んだところからトントン拍子に話がまとまり、当時のJAWS-UG札幌支部メンバー(三浦さん、小倉大さん、橋本修さん)+波田野の4人によるリブートとなったのです。(朝日を背景に手にパンとコーヒーを持ったサメのロゴは、橋本さんがサクッと作ってくださいました。感謝!)

このリブートは、メディアでも取り上げられ(当のイビサさんがASCII.jpで記事にしてくれた、だけですがw)、現在まで継続的に開催を続けることができています。(現在のJAWS-UG朝会はほぼ小倉さんのご尽力でまわっています。感謝!)

ラジオ体操から始まるJAWS-UG朝会のリブートに参加してみた(ASCII.jp 2020年6月29日): <https://ascii.jp/elem/000/004/017/4017795/>

4.4 JAWS-UG 朝会には、多様な発表と多様な参加者が

こんな成り立ちとリブートを経たJAWS-UG朝会ですが、現在は完全にオンラインで毎月定期開催をしており、全国から様々な登壇者・参加者がいらっしゃいます。リブート当初は発表枠がなかなか埋まらず、運営が穴埋めの発表したり四苦八苦していましたが、最近では登壇まで数ヶ月待ちになるなど、嬉しい状態になってきています。発表内容は、初心者がハマったことから、玄人好みのふか~い解説まで、ジャンルもレベルもとても多様性に富んでおり、参加者も、仕事前の机で聴講する人、ジョギングしながらラジオ代わりに聴く人、布団の中で見ている人などなど、こちらもとても多様です。(布団の中から参加できる支部は、あまりないんじゃないですかね...?)

4.5 ラジオ体操で目覚めスッキリしながら学ぼう

JAWS-UG朝会の大きな特徴の一つに、「最初にラジオ体操をする」というものがあります。布団の中で固くなった身体をボキボキ言わせながら行うラジオ体操第一に対して、参加者の皆さんからは、「何十年ぶりか!」「うー、身体からいろんな音がするー」「頭スッキリした!」など、楽しい反応が返ってきます。身体が目覚めてき

てから朝会で学ぶ AWS のアレコレは、テーマが多様なだけに、普段自分の興味に従って得られる知識とは違うジャンルのものも多く、毎回、視野が広げられる感があり、アンケートにもそのような回答が多いと感じています。

朝の貴重なひとときに、ラジオ体操と多様な AWS の話題で心身ともにリフレッシュできる JAWS-UG 朝会! 皆様のご参加をお待ちしています!!

著者紹介

波田野 裕一 (tcsh)

X: <https://x.com/tcsh>



AWS Hero: [Builder Center](#)

AWS Samurai 2017: [blogs](#)

AWS Samurai 2020: [blogs](#)

所属支部: [JAWS-UG CLI 専門支部](#) / [JAWS-UG アーキテクチャ専門支部](#)

/ [JAWS-UG 朝会](#)

第5章

Education-JAWSの紹介



Education-JAWS

AWS User Group - Japan

Education-JAWSは、AWS User Group - Japan(JAWS-UG)の専門支部の支部の一つで、主に雲の上(オンライン上)で活動しています。

5.1 Education-JAWSについて

5.1.1 Education-JAWS運営の根底

Education-JAWSは、「 教育 x AWS 」をテーマとして活動しています！ 教育ということで、対象領域としては、幼児教育から高等教育、教育現場での実践、Edtechと幅広く設定しています。

5.1.2 Education-JAWSの目的

以下の3点を目的として活動しております。

- 教育現場でのクラウド利用増進
- 学生に外に出る機会を与える
- クラウド利用の教育手法の発展

5.2 Education-JAWSの活動内容

Education-JAWSでは、雲の上(オンライン)での勉強会をメインに活動しています。雲の上(オンライン)での開催ということで、交通費等の捻出が難しい学生や、時間に追われる社会人の参加者も、気軽にご参加いただけます！

5.2.1 勉強会

登壇者のうち、半分程度は学生となっていて、これからJAWSを担っていく人材と、オンライン上で交流することができます。

勉強会の頻度としては、2,3ヶ月に1回開催しようという感じとなっています。

5.2.2 過去のイベント例

- [Education-JAWS #0 ~Welcome Students!~](#) Education-JAWSのはじまり
- [Education-JAWS #2 JAWS-UG 茨城コラボ回](#) 別支部とのコラボ回
- [Education-JAWS #5 ~なつやすみの自由研究発表会~](#) 直近の開催例

5.3 さいごに

Education-JAWSは、学生に特化した専門支部ですが、学生以外の参加もお待ちしています。学生、社会人のAWS初学者も参加しやすい環境だと考えているので、ぜひ少しでも興味のある方は、ぜひ一度オンラインでご参加ください！

第6章

Gov-JAWSの概要

Gov-JAWSは公共分野のクラウド利用に関するJAWS-UGの専門支部です。

政府のクラウド利用方針が示され、急速に公共分野でAWSの利用が進んでいます。中央省庁、地方公共団体をはじめとする公共分野のクラウド利用に興味・関心を持つエンジニア、行政関連組織の方々とAWSの知見やノウハウをオープンかつポジティブに共有する勉強会を開催していきます。

Gov-JAWSのConnpassページ: <https://gov-jaws.connpass.com/>

6.1 なぜ公共でクラウドなのか？

公共におけるクラウド利用の背景にはいわゆる2040年問題があります。

現在も進行中の急速な少子高齢化により、2040年には官民ともに労働人口が半減すると言われています。つまり、今の半分の職員数で行政サービスを維持しなければならないということです。

その一方で、社会制度は複雑化していきます。

少ない職員数で世の中の状況の変化に対応してシステムを柔軟・迅速に構築・変更し、効率的に良質な住民サービスを提供し、かつ保有する住民情報を強固に守らねばなりません。

そのためにはクラウドを上手に、スマートに利用していくことが必須です。

公共分野でクラウドを適切に利用していくけば、行政サービスが向上するとともに税金の無駄遣いが減少し、社会が良くなっていくのです。

6.2 公共分野の専門支部が必要な理由

公共におけるクラウド利用は2009年ごろから検討が始まりましたが、いわゆる「ガバメントクラウド」として積極的にパブリッククラウドを利用し始めたのは比較的最近のことです。

政府の「クラウドスマート」の方針が定まり、政府機関のみならず地方公共団体がガバメントクラウドを利用可能となったのが2022年。独立行政法人等を含めた全ての公共情報システムに拡大されたのが2024年です。

なお、Gov-JAWSが取り扱う範囲はガバメントクラウド AWSに限ったものではありませんが、実態として公共のクラウド利用はガバメントクラウドが多く、またガバメントクラウド利用の約9割がAWSであることから避けては通れません。

そして、ガバメントクラウドにおける AWS利用については、通常の AWS利用には無い要件や制約があります。

例えば、ガバメントクラウドにおいては機微な住民情報を取り扱うことが多いことから、利用できるリージョンは国内に限定されます。 AWS Outpostsなど、一部のサービスは利用ができません。 ガバメントクラウドを利用する団体は、AWSではなくデジタル庁と契約する関係上、有償の Marketplaceは利用できません。

ガバメントクラウド AWSはそれ 1 つが巨大な Organizationsで運用しているため、利用団体側で AWS Organizations や AWS Control Tower は利用できません。 Payerアカウント特有の機能も利用できません。

ガバメントクラウド上のシステムや AWSアカウントはGCAS（ジーキャス）というオンボーディングツール上で管理されます。 GCASはガバメントクラウド専用 IdP としても機能し、各アカウントにおいては GCASからの SSO ユーザーを利用します。 IAMユーザーは利用禁止です。

地方公共団体での利用の場合は更に複雑です。

マイナンバーを取り扱うケースが多いため、利用は原則専用線接続サービス (AWS Direct Connect) 経由となり、かつ「三層分離の対策」を実施する必要があります。 また複数団体での共同利用が推奨され、そのための各種スキームがあります。

これらの理由から、ガバメントクラウドにおいては一般的な AWSのベストプラクティスが適用できず、独自の対応が必要な場合が多くあります。 かつ利用してから年数も浅いため、そのためのノウハウも蓄積されておりません。 全国の公共に携わるエンジニアや自治体職員が同じような課題で頭を悩ましています。

公共のクラウド利用に特化した知見を共有する場が必要とされているのです。これが、私たちが Gov-JAWS を設立した理由です。

6.3 Gov-JAWSが目指すもの

Gov-JAWSは「オープン」と「ポジティブ」をコンセプトとしています。

公共分野のクラウド利用の専門支部ではありますが、参加者は公共関係者に限定するものではありません。

様々な立場の者が参加する事で、多様な視点のノウハウが可能になり、より良いアイディアや解決策が生まれます。

公共のクラウドに興味がある方が集まり、ノウハウを気軽に共有してポジティブに意見交換ができる場を作りたいと考えています。

6.4 Gov-JAWSの運営

事業者メンバーと公務員メンバーが一緒に運営しているのが特徴です。なお公務員メンバーはその特性上、協力メンバーという位置づけにしています。

6.5 勉強会について

勉強会は主に次のテーマを扱います。

- 公共分野のAWS動向
- 公共分野のAWSアップデート
- 公共分野のAWS事例紹介
- 公共分野ならではの要件への対応、開発、運用関連トピック（例：ネットワーク、セキュリティ関連の各種レギュレーションに対する対応など）

なお、デジタル庁が非公開情報としているものは取り扱いません。

専門支部であるためオンライン開催が多いですが、公共関係者が集まるイベントと合わせてオフライン／オンラインのハイブリッド開催をする場合もあります。

公共という特性上、他の地域支部や専門支部との合同開催にも適していると思います。（他支部からのコラボ申出もお待ちしております！）

公共分野に興味がある方は是非ご参加ください！

6.6 勉強会開催実績

6.6.1 【コラボ企画】NW-JAWS 公共スペシャル with Gov-JAWS[仮]

- 2025/02/14開催、オンライン
- JAWS-UG ネットワーク専門支部「NW-JAWS」とのコラボイベント
- 参加者694人

6.6.2 Gov-JAWS#1～中央省庁/自治体のAWS移行事例～

- 2025/04/24 開催、オンライン
- 参加者 470 人

6.6.3 Gov-JAWS#2

- 2025/06/17 開催、ハイブリッド (AWS目黒オフィス)
- 参加者 325 人

6.6.4 Gov-JAWS#3

- 2025/08/20 開催、オンライン
- 参加者 334 人

6.6.5 Gov-JAWS#4

- 2025/10/31 開催、ハイブリッド (AWS大阪オフィス)
- 参加者 244 人

第7章

JAWS-UG 彩の国埼玉支部とは？

アマレロ

JAWS-UG 彩の国埼玉支部は、彩の国・埼玉県を中心とした首都圏エリアの支部として、2025年4月7日に新たに設立しました。2025年11月現在、運営メンバー11人で楽しく活動しています。ここでは、彩の国埼玉支部についての紹介をさせていただきます。

JAWS-UG 彩の国埼玉支部 Connpass ページ：<https://jawsug-sainokuni-saitama.connpass.com/>

7.1 彩の国埼玉支部の支部コンセプト

彩の国・埼玉県を中心とした首都圏エリアの支部として、AWSに関する勉強会を通じて楽しく自ら学び発信しあう活動を担います。また、**各地方支部や専門支部とのコラボ**や、**埼玉の地域創成**を重視し、街や文化の紹介と体験イベントなどもあわせて、AWS初心者から習熟者まで、**誰もが楽しく参加できる支部活動**をめざします。

7.2 彩の国埼玉支部のロゴについて

「彩の国」 = 自然 * 産業 = 多彩 という意味があり、複数種類の名所、物産などをMIXさせたロゴにすることを考えました。

7.2.1 ロゴの説明



- 鮫色：彩(=いいろどり)を色彩で表現。赤・青・緑は、彩の国埼玉のロゴの色をモチーフに。
- 背景：埼玉県形を芝桜(秩父:羊山公園)。

- 花輪：県の花サクラソウ。
- 勾玉：「埼玉」の語源（さきみ『たま（=勾玉）』）。配色は鮫色と同じ。
- 羽翼：県鳥シラコバトをイメージした翼。

サメに翼を付けたのは、「既存のものに 新しい力」という意味が込められています。これまでJAWS-UGに参加者と新しいJAWS-UGに参加者で、新しい力、可能性を創出できればと考えています。

7.3 イベント開催実績

2025年4月から11月までの間に、合計8回のイベントを開催してきました。支部イベント6回、他支部とのコラボイベント2回開催し、勉強会と同日に埼玉県内で開催されるイベントへの参加も開催しました。

※開催されたイベントについては、上述のJAWS-UG 彩の国埼玉支部 Connpassページをご参照ください。

7.3.1 埼玉の地域創成に関するサブイベント実績

彩の国埼玉支部のイベントで特筆すべきは、埼玉の地域創成に関するサブイベントを開催したことです。埼玉の地域創成を目的とした活動の一環として、埼玉に来ていただいた参加者の皆様に埼玉県の良さを知っていただきたく、勉強会同日に埼玉県で開催されるイベントへの参加を企画しました。

与野公園ばらまつり見学会

さいたま市の与野公園¹で行われていた「ばらまつり2025」²が、第1回のイベントと同日に開催されていましたので、勉強会前に参加可能な人たちで、バラを見学しに行くサブイベント³を企画しました。

会場の与野公園は明治10年に開設され、バラ園は昭和52年（1977年）に開園された歴史のある場所で、約200種類、約3,000株近くのバラが咲き誇っています。当日は雨で肌寒い中でしたが、現地のガイドさんの説明を受けながらバラを楽しんできました。

お昼は、与野公園から徒歩5分くらいの場所にあるうどん屋「武藏野うどん松」⁴で武藏野うどんを食べました。埼玉の武藏野うどんはコシがあって食べ応えがありとても美味しいので、お近くに来た方は食べてみてください！

理化学研究所和光地区一般公開 現地ツアー

毎年、和光市にある理化学研究所⁵が一般公開されます。第4回のイベント⁶は、この理化学研究所和光地区一般公開に合わせて開催されました。

超伝導リングサイクロトロン、富岳の展示、HOKUSAIなど、我々ITエンジニアにも身近な展示を見学することができました。説明をしてくれる研究者・技術者に質問できて技術に携わる人同士の対話を楽しめること、理化学研究所のように世界に誇る研究所と研究結果を埼玉県内にあることを、参加者の皆さんに知っていただけた良いイベントだったと思います。

理化学研究所は、あらゆる科学の分野の研究と発表がされています。とても広い施設なので半日でも回り切れないほどのボリュームなので、来年もやるかもしれません。この本をお手に取った方で、理化学研究所にご興味を持たれましたら、彩の国埼玉支部のConnpassグループ登録をしていただければと思います！

7.4 最後に

彩の国埼玉支部では、AWS初心者やコミュニティ初心者の方々も安心して参加しやすく、ハードルが低い支部を目指しています。AWSの勉強はもちろんのこと、埼玉県の良さを体験して楽しんでいただけるような企画を、今後も検討していくたいと思います。ぜひ、最初のコミュニティ参加を、JAWS-UG 彩の国埼玉支部から始めてみてはいかがでしょうか？

ご参加お待ちしています！！

著者紹介



アマレロ X@amarelo_n24

JAWS-UG 彩の国埼玉支部運営

珈琲豆焙煎人兼エンジニアとして活動しています。
AWSの学習と珈琲豆焙煎に日々尽力しています。

-
1. 与野公園 公式サイト <https://yono-park.com/>
 2. ばらまつり 2025 <https://visitsaitamacity.jp/events/13>

3. イベントページ <https://jawsug-sainokuni-saitama.connpass.com/event/354656/>
4. 武蔵野うどん松
<https://tabelog.com/saitama/A1101/A110101/11061921/>
5. 理化学研究所 <https://www.riken.jp/>
6. イベントページ <https://jawsug-sainokuni-saitama.connpass.com/event/371504/>

第8章

佐賀支部の紹介

柴尾 哲也 (Tetsuya Shibao)

JAWS-UG 佐賀は、AWS User Group - Japan(JAWS-UG)の地方支部の1つで、佐賀県を中心に活動しています。

8.1 参加方法

参加頂く際は、こちらの Connpass からご参加ください。 <https://jawsug-saga.connpass.com/>

8.2 佐賀支部の歴史

佐賀支部は開始の歴史こそは古いのですが、現在は3回目の再始動 (re:Boot) を経て現在の形があります。

年月	イベント
2011年	JAWS-UG 佐賀活動開始
2014年11月	JAWS-UG 佐賀 re:Boot#1
2017年10月	JAWS-UG 佐賀 re:Boot#2
2023年2月	JAWS-UG 佐賀 re:Boot#3



8.3 佐賀支部の特徴

過去の再始動となつた経緯から現在は"ゆるふわ"をモットーに活動しています。

佐賀は地形的に移動が難しいところもあるので地方支部ながらハイブリッドの取り組みを行ったり、 オフラインでは、施設の特性（バリアフリー、キッズスペース等）を考慮して開催しています。

内容としては、オフラインでのハンズオンやLTを中心に行ってますが、 地方は参加者が都市圏に比べると多くないので参加者同士の悩み相談を全員で解決するといった、 オフラインでもゆったりとしたペースで実施しています。

九州のJAWS-UG支部との連携もそうですが、 佐賀県内では、佐賀県からITコミュニティ支援業務を委託されている団体や、 佐賀県下の他のITコミュニティとも相互に連携しています。

開催するときは、JAWS-UGの他支部とのコラボ会のときもありますが、 佐賀で単独開催するときは、地元の祭りやバルーンフェスタなどの人が賑わう時期や、 2025年に11周年を迎えた某ゲームとのコラボ企画、2025年に映画が公開された某アニメがあり、 そういう企画と連動させることで、「ただ佐賀に来る」ということではなく、「その企画についてJAWS-UG佐賀に参加する」という形で開催しています。

8.4 過去に開催したイベントについて

イベント開催のたびにposfie（旧Togetter）、開催ブログをまとめています。

<https://sites.google.com/view/jawsug-saga/event>

第8章 佐賀支部の紹介

佐賀支部運営メンバー



@sugimisu



@tobetchi



@DDDBTDA



@midnight480



@UniKawazoe



@POcean10



@uzak11

第9章

転職にも良く効く CLI 専門支部

波田野 裕一 (tcsh)

CLI専門支部は、AWSの公式コマンドツールである"AWS CLI"でハンズオンを行う支部です。2014年7月に立ち上がった、JAWS-UG 初の専門支部であり、ハンズオンの開催回数はAWSコミュニティ内では世界最多(非公式: 2025年10月現在)となっています。

CLI専門支部のConnpassページ: <https://jawsug-cli.connpass.com/>

9.1 10年経つても陳腐化しない AWS 知識

AWS CLIは、AWSサービスの本体とも言えるAWS APIを直接操作することができるコマンドツールです。デザインが割とよそちゅう変わるマネジメントコンソール(通称:マネコン)に対して、APIは、機能が追加されることはあっても、操作方法が変わることはほぼありません。(自分のこの12年の記憶でも、比較的メジャーな破壊的変更は、Lambdaのリリース直後にロールの扱いが変わったのと、CloudFrontに必須パラメータが追加されたのくらいしかありません。)

つまり、一度AWS CLIで操作を覚えちゃうと、10年後もそのままその知識が使える、というとても美味しいメリットがあるのです。

更に、変更前と変更後に確認コマンドで、設定状態をAPIレベルで確認できるため、なにかのときに「戻し」をするのもさほど難しくはありません。(マネコンの正確な「戻し」ってどうやってやるんですかね? 「だいたいこんな感じ」には戻せると思いますが...)

個人的には、本番環境での作成(Create)、変更(Update)、削除(Delete)は、CLIやSDKなどのAPIベースでやるべきであり、「本番環境でGUI(マネコン)を使ってもいいのは中学生まで」というフレーズをよく使っていました。(今どきの高校生は、カード1枚あれば、がちでクラウド使えますからね...)



図1: GUIは中学生までかな (画: ばへぼへさん)

9.2 CLIでのAPI知識は転職によく効く（通称「JAWS-UG 転職支部」）

マネコンは知識が曖昧でも、雰囲気でなんとなく操作できてしまいますが、CLIでAPIを操作するには、そんな生温いレベルでは歯が立たず、API仕様を正確に理解しておく必要があります。

これが、実に転職には効果的で、約12年の活動(450回以上の開催、のべ14000人以上の参加者)からは、100名以上のクラウド転職者が誕生しています。CLI専門支部からのクラウド転職者は、あのブログの会社が一番多いのですが、目黒(2025年10月現在)のあのクラウドの会社の中の人として活躍されている方々もおられます。

おかげさまで、みなさんからは「AWS CLIで基礎が固まったのが大きかった」とおっしゃっていただけています。

9.3 CLI専門支部の最近の活動

ここ数年は、全てのAWS APIサービスの基礎ともなる、IAMを中心に解説とハンズオンを行っており、「IAMの全リソース、全アクション、全パラメータを扱う」ハンズオンをシリーズでやっていきます。

他ではなかなか聴けない、「公式なAPI仕様に忠実な技術解説」とともに、CLIハンズオンで実際にAPIをさわってみる。そんな経験を積んでみませんか？

2026年度からは、他のサービスにも手を伸ばしていきたいと思いますので、ご期待ください。

著者紹介

波田野 裕一 (tcsh)

X: <https://x.com/tcsh>



AWS Hero: [Builder Center](#)

AWS Samurai 2017: [blogs](#)

AWS Samurai 2020: [blogs](#)

所属支部: [JAWS-UG CLI専門支部](#) / [JAWS-UG アーキテクチャ専門支部](#)
/ [JAWS-UG 朝会](#)

JAWS-UG には JAWS Days 2014 が初参加(ぼっち)で、当時は会場に熱気に気押されて、懇親会にも参加せずにスゴスゴと帰りました。皆、最初はそんな思いをしているものです。コミュニティでのおすすめアクションは「こんな失敗しちゃいました」系の発表です。

第10章

JAWS-UG 情シス支部とは？

山崎奈緒美(nao_spon)

JAWS-UG 情シス支部は、AWSを自社内で利用している企業において統制・推進、内製開発を行う社内エンジニアのための勉強会コミュニティです。

JAWS-UG 情シス支部のページ：<https://jawsug-sysad.connpass.com/>

10.1 JAWS-UG 情シス支部が生まれたきっかけ

私自身が“情シス”としてAWSを利用していくにあたり、どのように導入を進めていくのか、予算や稟議、按分等の費用関係、AWS利用ポリシーの策定や監査対応などの内部統制、セキュリティガバナンス、運用管理、開発ベンダーへ依頼している場合はどのように進めていくのか・・・さまざまな悩みを抱えていました。

またこれらの悩みについて、自社のやり方で合っているのか、もっと良いやり方があるのではないか？

AWSのベストプラクティスはAWSのソリューションアーキテクトの方へ相談したらわかるものの、では実際の現場ではどうなんだろう？他社企業ではどのようにしているのだろう？という疑問もありました。

通常、普通に仕事をしていただけでは他の企業の同じような立場の方とお話をする機会は無いに等しい状況です。

それなら、みんなで議論する場を自分で作ろう！ということで2015年11月にJAWS-UG 情シス支部として発足しました。

10.2 こんな人におすすめ

- AWSを利用したサービスやシステムを利用するにあたり、社内でどのように利用するのか、利用促進・拡大をするには？といった社内SEとしての観点で議論したい人
- 自社内でAWSを実際に利用してみてわかったことなどの知見を共有したい人
- 自社システムやグレープ内のシステム担当であれば所属企業の種別は問いません。

- SIer、CIer、メーカー、システム子会社、ユーザ企業のいずれに所属されても、ひとり情シスでも兼務情シスの方でも現場部門の方でも参加可能です。

ユーザー企業の情シス部門所属でないとダメと思われることもあるのですが、内製で自社サービスをAWS上で開発・構築・運用しているような方もOKです。

ですが「お客様企業のシステムを作っている」方においては、社内統制や自社内での利用促進といった観点が異なるため、"Not for me" な内容かもしれません。

10.3 Before 2020, and after

2015年～2019年の間は目黒のAWSジャパンさんの会議室をお借りして、20名程度の人数で全員でその時のテーマについてフリーディスカッションをする方式をしていました。

例えば・・・

- 大規模障害をテーマにその時どうする・ユーザ企業の情報システム部門はどうした・どうすべきか
- AWSのIaC活用
- 自社内でのDaaS活用
- 社内でのAWS技術者の育成
- AWS上でのログ監査基盤やセキュリティ
- 予算と稟議

特定の技術要素がテーマの際には前半はAWSのSAさんによる説明や参加者の方による事例紹介などをし、そこからみんなでディスカッションをしていました。

ちなみに一番盛り上がったのは「予算と稟議について」です。

時間内では物足りない参加者が多数出て、懇親会でも盛り上りました。

そして2020年はコロナ禍により、オンラインでの開催をしていたのですがオンラインでのディスカッションではファシリテーションの難しさを感じ、あまり開催をできていませんでした。

また、私自身が東京から札幌へ移住したこともあり、以前のように気軽にAWSさんのお部屋を借りて・・・ということも難しくなってしまいました。

2025年は情シス支部が10周年を迎えるということもあり、また、自分自身が首都圏から地方都市へ移住し、地方企業でのAWS利用を自分自身も経験し、周りの方達から見聞きしたところから、こんな想いが出てきました。

- 地方企業の情シスの方々もAWSを利用しているけれど、なかなか情報交換できる場が無いのでは？
- 首都圏ではAWSの利用は割と一般的になつてきているものの、地方ではまだまだ悩んでいる情シスの方が多いのでは？
- 地方では首都圏の勉強会に参加するにも移動コストがかかり、気軽に参加しづらいのでは？

首都圏では毎日のようにAWS関連の勉強会が開催されていますが、地方ではそもそも開催頻度が少なく、同じ立場の方と出会う機会も限られています。だからこそ、地方でこそ情シス支部のような横のつながりを作る場が必要だと感じています。

10.4 それなら、地方で情シス支部をしよう！

ということで、2025年5月に札幌、同年9月に神戸で、それぞれ地元の支部とコラボレーションという形で勉強会を開催しました。

また、日程は未定ですが熊本や北九州でも開催を予定しています。

内容については前半は事例の紹介LT、後半はテーマをもとにしたチョークトークの形式をとっています。

チョークトークとは、いわゆるゼミの授業のような形式で、架空の企業の架空のシステムを対象にディスカッションテーマを決め、参加者のみなさんには手をあげて発言していただく形となります。

たとえば、過去の開催では以下のようなテーマで実施しました。

- テーマ：ECサイト運営をしている企業のシステムにおけるCloudWatchの利活用について
 - セール時の負荷対策として、どのような自動化を実装するか？
 - バッチ処理の異常検知で工夫している点
 - セキュリティインシデントの検知・対応で効果的だった施策
- テーマ：物流業企業におけるEoL対応について
 - 予算確保のためにEoL対応を「コスト」から「投資」へ視点転換する経営層への説明
 - EoL対応を実行するまでのシステム移行についてどのように移行計画を立てるか
 - 組織内のスキルアップ推進のためどのような施策をするか

皆様のお住まいの近くである時はぜひ来てくださいね！

10.5 おわりに

JAWS-UG 情シス支部では自社内で AWS を利用している情シス部門や内製開発部門、現場部門ならではの悩みの解決や知見の共有を目指して活動しています。

同じような立場だからこそ聞きたい、知りたいことがあるのではないかと思います。

初めての参加でも大丈夫です。チョークトークでは発言を強制することはできませんし、まずは聞くだけの参加でも全く問題ありません。「こんなこと聞いていいのかな？」と思うような素朴な疑問こそ、実は多くの方が抱えている共通の悩みだつたりします。

ぜひ一度、お気軽に参加してみてください！

情シス支部運営メンバー

山崎奈緒美(nao_spon)

X: https://x.com/nao_spon

AWS Samurai 2015: [blogs](#)



所属支部: [JAWS-UG 情シス支部](#) / [JAWS-UG アーキテクチャ専門支部](#)

ソフトハウスでインフラエンジニア→地図情報システム開発会社でひとり情シス→旅行会社の情シス部門でクラウド担当→

2020年9月に東京から札幌へ移住し、10月よりコープさっぽろへJOIN AWSのことならなんでも担当

砂岡雪(白"雪姫")

X: https://x.com/yuri_snowwhite

所属支部: [JAWS-UG 情シス支部](#) / [JAWS-UG クラウド女子会](#)



小企業派遣社員でネットワークエンジニア→ソーシャルゲーム会社でインフラエンジニア→ベンチャー企業で情シス部門・インフラエンジニアを経て、同社のセキュリティエンジニア→現在は外資系企業のSREをメインにセキュリティエンジニアを兼任。

2025年からCommunity Builders

第11章

JAWS-UG クラウド女子会とは？



JAWS-UG クラウド女子会は、AWSに関わる、もしくは学ぼうとしている、あらゆる女性をターゲットとした支部です。運営は全員女性で構成されています。特定の技術領域や地域に特化せず、楽しく学べる事をベースとしてイベントを主催しています。

JAWS-UG クラウド女子会のページ：<https://jawsug-cloudgirl.connpass.com/>

11.1 クラウド女子会の参加者

クラウド女子会は、何事も楽しんで取り組める女性であれば、参加者の職種（エンジニア、デザイナー、マーケターなど）は問いません。参加者のターゲットは女性ですが、エスコート制度により、参加女性1人につき男性1人参加が出来ます。過去には、同僚や友人の方、中にはご夫妻で子連れ参加される方などいらっしゃいました。

11.2 開催場所、タイミング

基本的には東京を拠点に四半期に一回を目途に開催しています。最近はJAWS-UGの他支部とのコラボ開催も積極的に行っており、名古屋支部（2025/8）コラボでは名古屋へ、情シス支部＆札幌支部（2025/5）コラボでは札幌で開催しています。地方にいるけれどクラウド女子会に参加したい！という方がいらっしゃれば運営メンバーが各支部とのコラボを相談し、現地に駆け付けます！※コラボ開催については男女問わず参加者を募っています。

11.2.1 2023年リポート（再始動）後の他支部コラボの実績

- 2025/8：名古屋支部
- 2025/5：情シス支部、札幌支部
- 2025/4：Media-JAWS
- 2024/11：群馬支部
- 2024/7：福岡支部
- 2024/2：札幌支部
- 2023/8：佐賀支部、長崎支部
- 2023/3：東北支部

また、クラウド女子会は、ご家庭の事情や業務が多忙な方でも参加しやすいように、基本的には休日の午後の時間帯に開催しています。

11.3 2025年の活動

2025年は、これまでに以下のイベントを開催しています。LT（Lightning Talk）大会やAWS Builder Cards体験会、ハンズオンなど、開催内容は多岐に渡ります。

11.3.1 第27回クラウド女子会～re:Invent振り返りLT会～

2024/12に開催されたre:Invent 2024（年に一度ラスベガスで開催されるAWSによる世界規模の学習型カンファレンス）の内容に関する振り返りLT大会を開催しました。

11.3.2 Media-JAWS 【第19回】 クラウド女子会コラボ！

Media-JAWS とコラボでの開催でした。AWS さんによる NAB Show の re:Cap や、メディア業界に関わる女性の登壇、キャリアに関する座談会など多岐に渡る内容で、非常に有意義な会でした。

11.3.3 JAWS-UG 情シス支部 第31回 クラウド女子会×札幌支部コラボ会

情シス支部、札幌支部とのコラボ開催でした。各支部の関係者による LT 大会及び、CloudWatch に関するチョークトーク（参加者と講演者の対話型のセッション）を行いました。チョークトークでは活発な意見が出、大変盛り上がりました。

11.3.4 第28回クラウド女子会～夏のLT大会！& AWS BuilderCards v2をプレイしよう～

AWS を学ぶことのできるカードゲームである AWS BuilderCards の Version2 を参加者みんなで楽しみました。

11.3.5 クラウド女子会×JAWS-UG 名古屋 8月会① コラボ会

名古屋支部とのコラボ会でした。クラウド女子会の運営が名古屋に向かい、名古屋支部メンバと共に LT 大会と Amazon Q Developer のハンズオンを行いました。

11.3.6 第29回クラウド女子会～ちょっと長いLTしましょ～

11/22（土）に開催予定の会で、re:Invent 直前 LT、キャリアに関する LT、オンラインプレミスに関する LT、技術ネタ LT の枠を作り、登壇者を一般募集しています。
(執筆時点で未開催)

11.4 クラウド女子会はこんな人におすすめ

以下のような方にお勧めです。

- JAWS-UGはじめ、技術関連のコミュニティは男性参加者が多く、女性一人では参加し辛い
- 女性ならではの悩みなどを相談したい
- AWS に関わる他社の女性と交流したい
- 非エンジニア職だが、JAWS-UG に興味がある

クラウド女子会は女性参加者をターゲットにしており、男性参加者もエスコート制度での参加に絞っているため、心理的安全性が高く、参加のハードルが低い支部になっています。また、毎回15~20分程度、運営 + 参加者数名で、お互いの相談事項や今後クラウド女子会で取り扱ってほしいテーマなどについてディスカッションする場を設けていますので、女性ならではの悩みの相談をしたり、交流を図ったり、運営に対して要望を伝えたりがしやすくなっています。

クラウド女子会でJAWS-UGに慣れ、他支部のイベントに参加される方も多く、女性がJAWS-UGに参加する入り口の支部としてもおすすめの支部です。

11.5 おわりに

クラウド女子会の紹介文を読んで下さりありがとうございます。上述の通り参加ハードルも高くなく（コラボ開催を除き基本女性限定ではありますが...）、また、技術や地域に特化せず様々な取り組みを行っている支部ですので、是非お気軽にご参加いただければと思います。ご参加をお待ちしております！！

著者紹介

五味なぎさ(@nagisa_53)

X: https://x.com/nagisa_53



所属支部: [JAWS-UG クラウド女子会 / 彩の国埼玉支部](#)

APN所属SIer勤務のクラウドアーキテクト兼マネージャー。元々ネットワーク系のSEだったため、AWSのネットワーク系サービスが大好物。

AWS Ambassadors、AWS Community Buildersとして活動するなど、公私ともにAWSと深く関わる日々を送っています。

著者以外の現在のコア運営メンバ

小寺 加奈子(@KanakoKode16) X: <https://x.com/KanakoKode16>

長濱 志歩

妹尾 歩美(@senooayumi) X: <https://x.com/senooayumi>

砂岡雪(白"雪姫") X: https://x.com/yuri_snowwhite

第12章

はじめての人でもそうでない人にも来てほしい 初心者支部をすすめたい

山本淳博(もつ)

12.1 初心者支部はいいぞ

山本淳博（もつ）といいます。JAWS-UGに入るきっかけとなった初心者支部について話して見ようと思います。最近やっと初心者支部運営に顔を出せるようになってきましたし、やっぱりここが好きなので初めての人向けに書いてみます。

12.2 JAWS-UGへの参加・・・はちょっと怖かった

Xとかで AWSについて発信している人を見ると強強なエンジニアばかりでした。「この人たちはどうやって勉強しているんだろう」「どうやってこういう人と話す機会ができるだろうか」と悩んでいた頃、初心者支部というなんとも参加しやすそうな支部のイベントを見つけました。当時からテックイベントにはある程度参加していましたが、参加したことのない分野（今回だと AWS関係のイベントや勉強会は全くなかったです）だとどこから行くのがいいのかわからないことも多く、明確に「初心者ウェルカム」とうたってくれると心理的ハードルが下がります。

12.3 LTのハードルも個人的には低め、アウトプットするにはまさにうってつけ

よく「アウトプットしないのは知的な便秘」とJAWS-UGの勉強会では聞きますが、じゃあどうしようとなるわけでして。Xとかブログをある程度していると「次は何でもいいから表にたって話してみたい」となると思います（なりますよね？）。時々初心者支部のLTが「喋りたいことを喋る会」「初心者をターゲットにしたLT会」という「こんな内容でも話していいのかな」といった心理的な壁を下げるようなこともやっています。慣れてくれば登壇することや応募することにも抵抗がなくなってしまいますし、もし見つけたら迷わず申し込みをしてほしいです。話す内容は申し込んでから無理やりひねり出せます（締め切りを決めてしまわないとやらない自分はこの方法をよく使います。）。

12.4 JAWS-UGの懇親会は絶対に参加してほしい

会社の懇親会とはちがい、ここにいるのは何かしらAWSが好きな人。技術的なことを語り合うことができますし、全然関係ない趣味についても当然ざっくばらんに話すことができます。登壇者へ質問するハードルも懇親会であれば結構さがりますし、「実はあの裏では...」みたいに発表では言えなかつたことを聞くことが出来ます。終電よりも早めに帰れますし、オンラインの勉強会にせっかく来たのだから参加してほしいなーというのが運営をやってた人の気持ちです。

12.5 将来的には他の支部へ

初心者はいずれ卒業していくもので、登壇に慣れてきたり自分なりにやりたいことが出来てくると他の支部へも参加していくようになります。そんな手助けをしていくのも初心者支部ですし、初心者を卒業したから来てはいけないというわけではないです。むしろ初心者をどうやって卒業したのか、これからどんなことをしていくのかを語りにきてほしいなと思ってます。

12.6 迷ってるなら始めるのみです

ここまで読んでくれていたらきっと参加したくなつたことでしょう。あとはconnpassで「JAWS-UG初心者支部」と調べて参加するボタンを押すだけです。それでは初心者支部でお待ちしています。

著者紹介



山本淳博(もつ) X@ad_motsu
[Blog](#)
[speakerdeck.com](#)

ServiceNowとAWSが好きで、今は監視がお仕事のインフラSREです。
 趣味の自作キーボードは分割トラックボール付派。週末は馬を追いかけています。

第13章

JAWS-UG Sales支部とは？



JAWS-UG Sales支部は、AWSクラウドに関わる**営業職やマーケター向け**の勉強会コミュニティです。

2018年9月に大阪で発足し、「**エンジニアじゃなくても楽しめるJAWS-UG**があつてもいいんじゃないの？」という、ノリと発想から生まれました。

クラウド業界では年々 AWSを扱うソリューション営業が増え、営業職も最新情報のキャッチアップが欠かせません。

しかし通常のエンジニア向け勉強会はハードルが高く感じる営業職も多いでしょう。そこで**営業やビジネス職が気軽に集まり、仕事を楽しむための知見共有や交流ができる場**として、Sales支部が誕生したのです。

AWSの技術ネタだけでなく、日々の営業活動のTipや困りごとを持ち寄ってみんなで解決策を探る、アットホームな雰囲気のコミュニティです。

13.1 初心者でも楽しく参加できるポイント

JAWS-UG Sales支部最大の特徴は「非エンジニアでも楽しめる」ことです。

対象はクラウドに関わる営業・マーケ・カスタマーサクセス・プリセールス・サポートなど幅広く、技術スキルよりもビジネス視点を重視した内容になっています。

- **わかりやすいテーマ**

「営業目線で AWS Summit をどう感じたか」「顧客とのやりとりで役立つクラウド知識」など、実務に直結する話題が多く初心者も理解しやすい。

- **Fresh枠（新人LT枠）の存在**

「LT初挑戦の方、大歓迎！」という新人向けの登壇枠があり、安心して発表できる。

- **温かい応援ムード**

発表後は大きな拍手とコメントが飛び交い、初心者もチャレンジしやすい雰囲気。

さらに「学んだことが即仕事に活きる」のもSales支部ならではです。

AWS資格取得を通じて営業成績を伸ばした事例など、身近な成功体験が共有されています。

13.2 イベント内容と支部の雰囲気

Sales支部のイベントは**参加型・多彩**なのが特徴です。

- **LT大会**

営業・マーケ目線のネタで発表。「推し AWS サービス」や「お客様との AWS あるある」など。

- **提案コンペー仮想 RFP コンテストー**

提示されたお題に即興でチーム提案を披露。後日「振り返り会」で議論を深める徹底ぶり。

- **生成AIアイデアソン（予定）**

AWS 目黒オフィスでのオンライン開催。参加者同士でチームを組み、ぶっちゃけトークからアイデアを膨らませる。

13.3 おわりに – 初心者こそ Sales 支部へ！

JAWS-UG Sales 支部は、**初心者に優しく開かれたコミュニティ**です。

非エンジニアが主役になれる数少ない支部であり、明るくアットホームな雰囲気が魅力。

第13章 JAWS-UG Sales支部とは？

LT大会での小さな成功体験や、懇親会での出会いが、あなたのAWS活用を後押しします。

「営業がクラウドを学んで何が楽しいの？」と思う方こそ、一度参加してみてください。

いつでも新しい仲間を歓迎しています。

「営業が楽しむJAWS-UG」の一員として、一緒にAWSコミュニティを満喫してみませんか？

Connpassのページ：<https://jawsug-sales.connpass.com/>

Sales支部運営メンバー



ニシ サダオミ

X : <https://x.com/sadabon444>

営業なのに、コミュニティとAWSを愛する変わり者。

2024年のJAWS DAYS参加をキッカケに、AWSにドップリとハマる。

無類の旅行好きで、JAWS-UG地方支部に行くことが最近の趣味。



岡田 行司（オカダマン）

Facebook : <https://www.facebook.com/koji.okada2>

2024年のre:InventでJAWS-UG Salesのリブートを決意。

お仕事ではカスタマーサクセス（CS）組織を2022年に立ち上げた。

好きな業務はクレーム対応。

第14章

東京支部のススメ

大木 裕介 (y-ohgi)

JAWS-UG東京支部の紹介をさせていただきます。

<https://jawsug.connpass.com>

14.1 東京支部リブート

支部の発端はみのるんさんが2年前に東京支部のリブートツイートを行い、そこ
のリプライに集まつた3人とみのるんさんからリブートが始まりました。

2年間4人固定で運営してきましたが、2025年の秋に5人目となるふくちさんが
Joinしてくださいました！

14.2 ランチタイムLT会



毎月やっているランチタイムLT会は最初の半年でそれぞれが「司会係」「配信係」
「X(旧Twitter)を監視して質疑応答を拾う)係」のおおまかに3つのロールを作つてそ
れぞれ順番に回しました。そのおかげで半年後には実質バス係数4になり、1人でも
ランチタイムLT会ができる体制が整いました。配信当日までの登壇者へのアポイ
ントやアンケート作成・次回のconnpass作成などはベストエフォートで「できる
人がやる」形で回しています。

14.3 特產品

東京支部の特產品としては「運営がスタンドアローンで思いついた勉強会を生やしてやりたいことをやる」というものがあります。

みのるんさんによる Bedrock Night、watany さんによる Presents 400、私（yohgi）による Community Builders Night など、各自がスタンドアローンで勉強会を主催しています。

これは各位の経歴的にクラウドを推進するポジションに居たことがひとつの理由なのかなと思っています。

また、それぞれのイベントをサポートし合うところもこの支部の良いところだと思っています。

14.4 昔話: 4人集まらない呪い

2025年秋まで4人での運営を行い、毎月ランチタイムLT会を行っているのですが運営4人が集まったことがオンライン・オフラインともに極めて少ないです。

4人なのに片手で数えられる回数しか集まったことがない謎の呪いがかかっています…

今はふくちさんが積極的に活躍してくださってます！感謝！f

14.5 さいごに

東京支部が行っているランチタイムLT会は毎月完全オンラインで全国から登壇者を募集しています。

完全抽選性で1枠5分なのでカジュアルにアウトプットの最初の一歩目として是非登壇していただきたいと運営一同思っています。

東京支部運営メンバー



みのるん @minorun365 (KDDI アジャイル開発センター株式会社)

クラウドや生成AIで内製開発を行いながら、技術の楽しさを伝える活動をしています。

AWS Community Hero, AWS Samurai, 2025 Japan AWS Top Engineer & All Certs, Qiita 2024 Top Contributor / 著書「Amazon Bedrock 生成AIアプリ開発入門」(SBクリエイティブ) , 「やさしいMCP入門」(秀和システム)



watany @_watany (NTTテクノクロス株式会社)

2015年からAWSを用いた開発に携わり、アーキテクト・運用設計支援として活動する一方で、社内にてテクニカルサポートや研修講師を務めています。

また、AWS Community BuilderとしてAWS CDKのContributeや技術ブログの執筆を行っています。2024 AWS Ambassadorを受賞。



y-ohgi @_y_ohgi (株式会社Topotal)

株式会社TopotalでSREをやっております。

新卒として合同会社DMM.comに入社しCTO室でクラウドの活用方針・普及・技術支援など全般を携わらせて頂きました。その後、フリーランスとしてクラウドのスポットでの開発・技術支援・技術顧問などのお手伝いをやらせていただいている。2025 AWS Community Builder(Container)



ムリギッテ @momitanJP

パブリックセクターから金融機関、製造業まで様々な業界のお客様に向けたシステム提案・導入をしています。

最近はCDK、コンテナ、データ基盤がメイン。趣味はBlackbeltを聞きながら筋トレです。



ふくち @har1101mony

LLMを触って遊んだり、LLMを組み込んだシステムの開発をしています。

AWS Community Builder(AI Engineering) / 2025 Japan AWS Jr.Champion

第15章

JAWS-UG 栃木支部にお越しください

JAWS-UG 運営のジャニ(J Journeyman)です。2025年に「JAWS-UG 栃木支部」を立ち上げ1年弱活動したので、これまでのJAWS-UGとのかかわり、栃木支部立ち上げの経緯、栃木支部の紹介、1年間の活動のふりかえりをします。

<https://jawsug-tochigi.connpass.com/>

15.1 これまでのJAWS-UGとのかかわり

JAWS-UGを知ったのは、活発なユーザーグループをマーケティング観点で調べていたところから始まります。初参加は三沢の立花さんが実行委員長をされた「JAWS DAYS 2017」でした。当時から全国50支部以上がある巨大なユーザーグループで、企業の有償カンファレンスに劣らないクオリティと、他では体験したコトがない圧倒的な熱量で強く心に刻まれました。

当時はSIerで新しいソリューションを広めるためのオウンドメディアの編集長兼メインライターとSNSの運用をやっていました(事情によりメディアは残っていません)。2年担当した後、データセンター運用と業務改善を担当していました。

運用の仕事はとても大事ですが、何か新しいチャレンジをしたいと思うようになり、一念発起してCLFを取得しました。オンライン勉強会で、今はすっかり「AWS Jr.Champions」の顔になった高橋ゆっきーさんが解説されていた入門のスライドが大きな後押しになりました。マーケティング始点で知ったAWSの認定を取る日が来るとは…。

<https://yoshidashingo.com/entry/2022/12/04/213746>

吉田真吾さんのブログをきっかけに自らのダメさを身をもって知りたくなり、AWS Summit 2023でGameDayに参加しました。技術そのものに対する解像度が一気に上がる目の覚める体験でした。

大した技術力もないのに、思いだけでGameDayをテーマに「JAWS Festa 2023 in KYUSHU」で初登壇しました。その翌年の「JAWS DAYS 2024」では、どうしても採択されたく、4本のCfPを出して、何とか登壇できました。

2023年度が"真にJAWS-UGに参加する"初年度だった、とふりかえって思いました。

15.2 JAWS-UG 栃木支部立ち上げの経緯

Festa や Days の登壇は果たせましたが、コミュニティから受け取った数えきれないギフトを返すには、十分ではないとずっと感じていました。支部設立を意識してから実際に立ち上げるまでに実は3年かかっています。

関東は長らく茨城と栃木に支部がありませんでした。そこには大きな壁がありました。IT コミュニティの過疎地域だったのです。立ち上げ目前の時に東京の勉強会と栃木の勉強会の開催予定を調べたら、**なんと 100倍の規模の違い**があったのです。そこから分かるコトは、「地域 × AWS」のつながりを作るのは至難の業だという現実です。

なければ自分で作る。地元栃木に、地元小山に。

決意はしたものの、3年かかった一番の理由が、運営メンバーの探しでした。出会いはなれば奇跡でした。AWS を学ぶ所属のコミュニティがあり、たまたま AWS Jam のバディだったのが今の JAWS-UG 栃木支部を共同で立ち上げてくれた森尾さんでした。灯台下暗しとはこのコトです。ただ、日本中の JAWS-UG でつながりを作ったり、所属内の他部門との交流につながる越境を繰り返していた結果が結実したととらえています。

やっとスタートラインに立てた瞬間でした。

※こちらのストーリーは、[DevRelKaigi 2025](#) で採択いただき 30 分セッションで詳しくお話ししたので、ご興味がある方はご覧ください。

https://www.docswell.com/s/8916250/KN92GE-20251004_DevRelKKaigi2025_jawsug_tochigi_beajouneyman

15.3 JAW-UG 栃木支部の特徴

< 支部活動方針 >

- コミュニティ過疎県栃木の現状を変える
- 登壇・貢献を全力で後押しする
- つながりを作るハブになる

「コミュニティ過疎県の現状を変える」については、活動実績を後述しますので、どうなったかご確認ください。

「登壇・貢献を全力で後押しする」。コレは2つの特徴的な運営スタイルに関連しています。1つ目は、可能なら全員自己紹介をしています。何もか知ってもらうのは案外難しいです。自分自身登壇するまでハードルがありました。2つ目は「参加

型トークセッション」です。コレは当方とバディの方が前に立って、みなさんに意見を求めるながらお題について議論する場です。恒例になっており、普段登壇されない方に、ご自身の考えやアイデアを気軽に話していただく機会になっています。今まで数十名の方にお話ししていただいている。

つながりを作るハブなるの施策として、小山開催にしています。首都圏、いや関東甲信越から比較的アクセスしやすい小山市で開催しています。栃木県の県庁所在地は宇都宮ですが、明示的に小山の開催を軸にしています。理由はいくつかありますか、同じ北関東の群馬、茨城から両毛線、水戸線でアクセスしやすい点は大きいです。また、宇都宮は都心部から100km越えですが、小山は80kmと在来線でもアクセス可能な近さ(約80分)があります。

なお、オリジナルロゴは検討中です。もう少々お待ちください。

15.4 2025年の活動実績

- オフライン 6回 うち満員御礼4回
- オンライン 13回(1回は12月開催予定) うち満員御礼3回
- connpassメンバー 0→152名 ※2025/12/04現在
- ストックされた資料 70本



立ち上げ回の集合写真です。初年度から奇数月にオフライン、毎月オンラインもくもく会を開催すると決めて、しっかり走り切れました。ただ、大きな課題として、運営メンバーが3名しかいないので、台所は非常に厳しいです。栃木にゆかりがあるお知り合いを紹介いただけだと、とても嬉しいです。

来年2026/02/07(土)には、通常の約3倍の規模で1周年記念回を開催予定なので、予定確保をお願いします！！

以上、最後までご覧いただきありがとうございます。引き続き栃木支部をよろしくお願いします！！！！

著者紹介



Journeyman(ジャニ) [@beajourneyman](https://twitter.com/beajourneyman)

コミュニティ：JAWS-UG 栃木支部

日本全国のJAWS-UGに登壇・参加。地域支部とつながり、運営を学び、JAWS-UG 栃木支部を立ち上げた。発起人。

Amazon Connect を基盤としたシステムの開発維持のPM。仕事柄、ニッチな音声系のサービスを追っている。桃と餃子と登山が好き。

第16章

JAWS-UG 新潟支部の紹介



JAWS-UG 新潟支部は、AWSを学びたい人、使ってみたい人、地域でつながりたい人が集まるコミュニティです。新潟を拠点に、「初心者も経験者も気軽に参加できる」雰囲気を大切に活動しており、定期的に「プチキャッチアップ」やハンズオン、勉強会などを オンライン／オフラインの両面 で開催しています。

16.1 活動内容

16.1.1 プチキャッチアップ[†]

毎週木曜日 21:00～オンラインで行っているプチキャッチアップでは、当日始まってからやることを決めています。

AWSに関する記事やアップデートの共有を参加者同士で話しながら、理解を深めることができます。

学習にあまり時間がかけられない方や、最新の動向をキャッチアップしたい方なんかにおすすめです。

16.1.2 オフラインの勉強会

新潟支部ではオフラインのイベントも定期的に開催しています。AWSのコンテナサービスや生成AIサービスのハンズオン、re:Inventの振り返りなど、さまざまなイベントを行なっています。

16.2 なぜ新潟支部？

新潟支部はオンライン/オフラインのハイブリッドな運営により、物理的に遠くても参加しやすい支部です。

新潟は東京のようにAWSイベントが頻繁に行われるわけではありませんが、だからこそ一人ひとりのつながりが強く、アットホームな雰囲気が特徴です。

初心者もベテランも関係なく、「話してみる」「聞いてみる」「一緒にやってみる」ことを楽しめるのが魅力です。

16.3 さいごに

新潟支部は、「AWSを通じて学び、共有し、地域を盛り上げる」ことを目指しています。

勉強会に参加するだけでもOK、LTで発表してみるのもOK、運営として企画に関わるのも大歓迎です。

まずは気軽に、次のイベントから参加してみませんか？

新潟支部のConnpassページはこちら：<https://jawsug-niigata.connpass.com/>

新潟支部運営メンバー



Hiroshi Kasahara

X : <https://x.com/kasacchiful>

github : <https://github.com/kasacchiful>

新潟でWeb、業務アプリ、インフラ等ととりあえずなんでもやるエンジニア。

やくも



X : https://x.com/yakumo_0905

github : <https://github.com/shinnosukeyakumo>

Qiita : https://qiita.com/yakumo_09

Jr .Championの先輩の背中を追いかけていたら自分も AWS沼にどっぷりハマってしまいました。

2025 Japan AWS Jr.Champion



カフェイン未摂取

X : <https://x.com/kam1nchu>

github : <https://github.com/kaminchu>



sakapun

X : <https://x.com/sakapun>

新潟でシステム開発。得意領域はwebアプリ。日本スピツツ飼っています。ポーカー、麻雀、アコギ（フィンガースタイル）あたりが2025年時点での趣味活動。お酒全般飲みます最近はウイスキーでグレンリベットが好きな基準に色々試し中

第17章

NW-JAWSのススメ

Shota Shiratori(@whitebird_sp)

NW-JAWSの紹介をさせていただきます。

<https://jawsug-nw.connpass.com/>

17.1 NW-JAWSとは



AWS利用がエンタープライズ企業へ広がっていくころ、オンプレミスとクラウドの接続に悩むエンジニアさんや通信キャリア、データセンターの事業者さん、ネットワーク機器メーカーなどの方を交え、2016年に第1回の勉強会を行いました。当時はNTTとKDDIという2大キャリアの社員が運営にかかわっていたことで大きな話題を呼びました。その後、ラスベガスでの現地開催、コロナ禍でのオンライン開催へのシフトを行っていく中でAWSネイティブな方が増え、AWSのことはよく知っていても逆にネットワークのことを知りたいという方が増えてきました。2023年からシーズン2として初心者向けにシフトし、3か月に一度程度の頻度でオンラインの勉強会を中心を開催しております。

17.1.1 こんな方々を対象にしております

- AWSに取り組む中で、ネットワークに悩みを抱えているエンジニアさん
- AWSと接続しているデータセンターさん
- 通信キャリア・ネットワーク機器ベンダーさん

17.1.2 勉強会のフォーマット

NW-JAWSの勉強会は下記の形式で進めています！

- ・昼開催オンライン：初心者向けコンテンツ（Lv.100-200相当）
- ・夜開催オンライン：中級～上級者向けコンテンツ（Lv.300-500相当）
- ・オフライン：交流やハンズオン、チョークトークがメイン

17.2 初心者向けにおすすめポイント

昼開催オンライン回が特におすすめです！

昼開催のオンライン回は、運営メンバーを中心にサービスカットでの初級解説（Amazon VPCとは？）だけではなく、「ネットワークはなぜつながるか？」というようなネットワークの基礎から解説していくため、AWSの初心者だけではなくて、ネットワークの初心者にもやさしいコンテンツになっています。

また、登壇枠に若手枠を設けており、社会人歴の浅い方や初めての登壇でも登壇のしやすい設計となっておりますので、お気軽に応募していただければと思います。

17.3 NW-JAWSの特有のワード紹介

NW-JAWSを象徴する特有のワードを一つご紹介させていただきます。

17.3.1 体育座り

オンラインの勉強会でも時折『体育座り』というワードが出てきます。この語源は過去にラスベガスで開催されたNW-JAWSにおいて、なんと部屋のキャパシティを大幅に超える申し込みがあり、椅子が足りないどころか部屋中に体育座りでもギリギリ…という開催となった回がありました。当時は運営メンバーではありませんでしたが、最前列で体育座りでセッションを聞き、3時間弱座り通しの勉強会だったことを今でも覚えています。

17.4 さいごに

NW-JAWSは専門支部ながら、AWS×ネットワークの初心者だけではなく企業や自治体の情シスさんをはじめ非常に多彩な方の参加で成り立っています。専門支部らしく上級回もありますが、まずは**昼開催オンライン回**にご参加いただき、ネットワークの基礎と登壇経験を身に着けてグローバルに羽ばたいていっていただければと思います！

NW-JAWS運営メンバー



白鳥 翔太 @whitebird_sp (NTT東日本 : AWS Ambassador/ネクストモード)

2009年入社。

2018年よりクラウドサービス開発業務に携わる。

2023年より NTTグループに新設されたスペシャリストグレードの社員一期生となる。

2025年11月からネクストモード株式会社へ出向

2024-2025 AWS Ambassadors/2020-2025 Japan AWS Top Engineers/2023-2025 Japan AWS All Certifications Engineers

好きな言葉は「Knowledge is power.」「Insist on the highest standards.」「Any sufficiently advanced technology is indistinguishable from magic.」



矢儀 文博 @yuki_ink (TIS株式会社)

TIS株式会社に2020年に新卒入社。金融業界のお客様のインフラを担当しています。2023 AWS Jr. Champions / 2024-2025 Japan AWS Top Engineers (Services) / 2024-2025 Japan AWS All Certifications Engineers



Hibiki @gravitas122

Sierに2023年新卒入社。マルチアカウント、NW、IaCが好きです。2025 Japan AWS Jr. Champions/ 2025 Japan All AWS Certifications Engineers



Takumi Sato

通信企業に21年度入社。入社当初は公共系のお客様のインフラ担当。現在はAWS環境の運用保守を実施している。また新入社員200名に対してクラウド研修の講師なども担当。好きなサービス : AWS SecurityHub

第18章

福岡支部について

木村健一郎 (Kenichiro Kimura)

JAWS-UG 福岡は、 AWS User Group - Japan(JAWS-UG)の地方支部の 1 つで、福岡県を中心に活動しています。



18.1 支部の特徴

『博多名物「乾杯」から始まる JAWS-UG』をキャッチフレーズに、オンオフを問わず楽しく AWS について学び、交流しています。初心者もベテランもお酒飲む人も飲まない人も誰でもお気軽にご参加いただけます。

オフラインイベントではキャッチフレーズの通り「乾杯」から始まり、和やかな雰囲気で AWS の最新情報や技術について学べる場を提供しています。また、オンラインもくもく会では、参加者が各自の課題に集中しながらも、質問や情報交換ができる環境を整えています。

18.1.1 in北九州について

JAWS-UG 福岡のサブグループとして、2025 年より北九州市を拠点に活動をスタートしました。AWS に関心のある皆さんと一緒に、LT 会やハンズオンを通じて交流と学びの場をつくっています。

18.2 主な活動内容

JAWS-UG福岡では、以下のような活動を行っています。

- オフラインイベント(2~3ヶ月に1回程度)
- オンラインもくもく会(毎週木曜 21時~22時)

九州地域の他の支部とも密接に連携しており、互いのイベントの運営を相互に手伝いに行ったり、AWS SummitやJAWS DAYSなどの大規模イベントに向けて毎週リレー開催を行う「JAWS-UG九州キャラバン」などの取り組みを行ったりしています。

18.3 過去のイベント例

- JAWS-UG福岡 #19: 15度目はちょっと濃いめに AWS BuilderCards で遊ぼう
AWS BuilderCards を通して AWS のサービスやアーキテクチャを楽しく学ぶイベント。
- JAWS-UG福岡 #19: re:Invent re:Cap!!
AWS re:Invent 2024の内容を振り返るイベント。「JAWS-UG九州キャラバン ~road to JAWS DAYS 2025~」の一環として開催。
- JAWS-UG福岡 #20: Storage-JAWS共催スペシャル Storage-JAWSとのコラボイベント。
- [現地開催] JAWS-UG福岡in北九州 #21 Amazon Q Developer ハンズオン
Amazon Q Developer for CLI を使ってAIエージェントを動かしてみるハンズオンイベント。「JAWS-UG九州キャラバン ~road to Summit 2025~」の一環として開催。
- [現地開催] JAWS-UG福岡in北九州 #22 Amplifyを触ってみるよ。 ハンズオン AWS Amplify Gen2 を使ったウェブアプリケーション構築の学び方

18.4 参加方法

JAWS-UG福岡のイベント情報は、主にConnpassで告知しています。興味のある方はぜひ以下のリンクから参加登録をお願いします。

<https://jawsug-fukuoka.connpass.com/>

コアメンバー紹介



青柳 英明 [@hideaki_aoyagi](#)



あべたく [@east_takumi](#)



内村 和博 [@kazu_UCHIMURA](#)



木村健一郎 [@show_m001](#)



清家 史郎 [@seike460](#)



夏目 祐樹 [@sinofseven](#)



ベコみん [@beco_minn](#)



松岡 文雄 [@tama_katsura](#)



森田 邦裕 [@92hi_6](#)

第19章

私のコミュニティ活動とEducation-JAWS

奥田 雅基（モブエンジニア）

初めましての方もお久しぶりの方もこんにちは。モブエンジニアと申します。

今でこそコミュニティへ頻繁に出没している私ですが、2024年まではLT登壇はおろかコミュニティ活動への参加も全く行っていませんでした。そんな私のコミュニティ活動のスタート、原点が実は **Education-JAWS** のことです。今回は参加レポート形式で **Education-JAWS** について紹介したいと思います。

Education-JAWS:<https://education-jaws.connpass.com/>

19.1 登壇したきっかけ

登壇したきっかけは**面白そ�だったから**という一言に尽きますが、当時を思い出すと「社外のエンジニアとつながりを持ちたかった」という想いから参加していたと思います。当時、私はエンジニア職ではなく人事担当として社内教育推進の役割を担っていました。今思えば、その時の経験は今も息づいていると思っています。

そんな中、**教育×AWS**新しい切り口のAWSコミュニティが発足することをXで知り、**私のキャリアを話す場としてはうってつけ**と考え、2024/11/21に開催した **Education-JAWS #0 ~Welcome Students!~**にLT登壇で応募しました。

19.2 初心者にも温かいコミュニティ

当時を振り返ると「たどたどしい発表」「技術要素が少ない」というお世辞にも良い発表とは言えなかつたと思います。そんな私の発表から**初登壇すごく良いや AWS からキャリアを考える視点がGood**といった温かいコメントを頂くことが出来ました。その時の経験から、今の自分があるのだと考えています。また、同じ回でも学生の方がAWSを活用して自作アプリを実装した経験、AWSを通じてキャッチアップしたことを紹介されていたので私自身も**社会人として頑張っていかないといけない**と思いました。

19.3 Education-JAWSは将来の技術者を育てる場

Education-JAWSの特性上、EdTech・学内教育事例に関するテーマの登壇が多いです。また、社会人だけでなく学生がAWSを通じてチャレンジしたことの発表も多くあります。私個人として**将来の技術者を育てる場**の印象を強く持っています。若手の活躍を見てモチベーションを高めていきたい方には、ぜひ参加してもらいたいと思っています。私自身も人事担当として多くのエンジニアを育てていくという役割を担っていたので、Education-JAWSに対して親近感を頂いています。

19.4 さいごに

本記事を読んで興味を持った方はぜひ参加してみてください！！多くの若手がJAWSを通じて成長していくのを応援しています！！

著者紹介



奥田 雅基（モブエンジニア）

X : [@mob_engineer](https://twitter.com/mob_engineer)

Qiita : https://qiita.com/mob_engineer

所属 : [JAWS-UG彩の国埼玉支部](#)

ごくごく一般的なエンジニア。コミュニティ界隈でモゾモゾしながら社外発信することを生きがいとしている。コミュニティ活動がきっかけで、最近APN所属企業に転職した。AWS12冠。

第20章

実践的なTipsが盛りだくさん！ JAWS-UG CDK支部のすすめ

アキキー | 池田 晃尚(@akikii__)

AWS CDKを初めて扱ったとき、その設計思想に感銘を受けた一方で、少し使いづらさも感じていました。AWS CDKの専門支部「JAWS-UG CDK支部」¹に参加し、たくさんの開発に役立つTipsや仕組みを学んだことで、よりAWS CDKの魅力に惹かれるようになりました。

そんなAWS CDKを盛り上げるイベントを数多く開催しているCDK支部について紹介させていただきます！

20.1 AWS CDKとは？

JAWS-UG CDK支部を語る前に、AWS CDKについて紹介します。

AWS CDKは、AWSが提供するIaCサービスの1つです。²

IaC(Infrastructure as Code)とは、サーバーやネットワークなどのITインフラをコードで定義し、リソースの作成や設定変更を管理する仕組みです。AWS CDKでは、AWSサービスの設定をTypeScriptやPythonなどのプログラミング言語で定義します。プログラミング言語の恩恵を受けることで、より柔軟・効率的にAWSサービスを構築できます。

AWS CDKはAWSが管理しているプロジェクトですが、OSSであることも特徴のひとつです。ソースコードが公開されていて³、誰でも機能追加のリクエストや機能の実装ができます。

20.2 どんなイベントをやってるの？

20.2.1 LT会

AWS CDKに関することなら何でもOKなLT会を開催していることが多いです。例えば、AWS CDKのTipsや初めて使ってみた感想、OSS活動などのトピックが話されています。

LT会はテーマを設けて開催されることもあります。AWS CDKはAWSの特定の技術分野によらないサービスなので、過去のテーマでは生成AI⁴やマネジメントコンソールとの比較⁵、はたまた別のJAWS-UG支部であるOps-JAWSともコラボした実績⁶もあります。

20.2.2 AWS CDK Conferenceについて

AWS CDKのカンファレンスであるAWS CDK Conference(以下、CDK Conf)が2022年から毎年開催されています。AWS CDKに情熱を捧げるスピーカーによる最新動向やベストプラクティスを共有するセッションが次から次へと繰り広げられます。

2025年のCDK Confでは他にもさまざまなサブイベントがあり、どれも賑わっていました。

- 初心者ワークショップ⁷
- CDKコントリビュートワークショップ⁸
- Amplifyワークショップ⁹
- CDK Vibe Coding Fes!!¹⁰

実は、AWS CDK関連の年次カンファレンスで毎年続いているのは世界を見ても日本のCDK Confだけです。世界一熱狂的！？なAWS CDKのイベントと言っても過言ではないのでしょうか？？

20.3 おすすめLT/セッション

これまでCDK支部では、たくさんのLTやセッションが繰り広げられてきました。その中でも、CDK支部に参加したことがない方にもおすすめしたいものをピックアップしました！

- AWS CDK 入門ガイド - これだけは知っておきたいヒント集¹¹

(@anan_kikuchi)

CDKを使った開発に必要な知識が網羅できます！次に読むべきリンクも載っているので、読み込めばCDKマスター間違いなし！？

- **保守性を高める AWS CDK のセオリー・ベストプラクティス¹²**

(@ren_yamanashi)

CDKを長く使うと困ってくる保守性を高めるベストプラクティスがまとっています！仕組みを知らないと思いつかないようなプラクティスがたくさんあります。

- **AIエージェントが書くのなら直接CloudFormationを書かせればいいじゃないですか何故AWS CDKを使う必要があるのさ¹³** (@_watany)

AIコーディング時代にAWS CDKを扱うことのメリットや、AIでCDKをどのように扱うべきかがわかりやすくまとっています！

- **AWS CDKの仕組み¹⁴** (@365_step_tech)

CDKが動いている仕組みを実装の詳細まで踏み込んで解説されています！CDKにDeep Diveしたい人は必見です。

20.4 さいごに

僕はCDK支部に参加して、自分では思い付かないような実用的なTipsにたくさん出会えました。

AWS CDKはどなたにでも扉を開いています。みなさんもJAWS-UG CDK支部に参加して、AWS CDKに入門・実用的なTipsを持ち帰る・自分の中に眠っているTipsを放流してみませんか？

共にAWS CDKを盛り上げていきましょう！

著者紹介



アキキー | 池田晃尚

X : <https://x.com/akikii>

2025 Japan All AWS Certifications Engineers

好きなもの： JAWS-UG、コーヒー、クラフトコーラ

AWS CDKが好きすぎてCDK転職（?）を果たしました。

1. JAWS-UG CDK支部のConnpassページ : <https://jawsug-cdk.connpass.com/>
2. AWS CDK とは :
https://docs.aws.amazon.com/ja_jp/cdk/v2/guide/home.html
3. AWS CDK GitHub リポジトリ : <https://github.com/aws/aws-cdk>
4. JAWS-UG CDK支部 #15 生成AI祭り : <https://jawsug-cdk.connpass.com/event/324263/>
5. JAWS-UG CDK支部 #20 マネコン支部!? VS CDK支部 : <https://jawsug-cdk.connpass.com/event/348953/>
6. CDK支部 and Ops-JAWS コラボイベント！！！ : <https://jawsug-cdk.connpass.com/event/356559/>
7. 初心者ワークショップ : <https://jawsug-cdk.connpass.com/event/356361/>
8. CDKコントリビュートワークショップ : <https://jawsug-cdk.connpass.com/event/356362/>
9. Amplifyワークショップ : <https://jawsug-cdk.connpass.com/event/356363/>
10. CDK Vibe Coding Fes!! : <https://jawsug-cdk.connpass.com/event/356357/>
11. AWS CDK 入門ガイド - これだけは知っておきたいヒント集 :
<https://speakerdeck.com/anank/aws-cdk-introduction>
12. 保守性を高める AWS CDK のセオリー・ベストプラクティス:
https://speakerdeck.com/yamanashi_ren01/bao-shou-xing-wogao-meru-aws-cdk-noseoribesutopurakuteisu
13. AIエージェントが書くのなら直接CloudFormationを書かせればいいじゃないですか何故AWS CDKを使う必要があるのさ :
<https://speakerdeck.com/watany/do-we-need-cdk2>
14. <https://speakerdeck.com/gotok365/how-aws-cdk-works>

第21章

JAWSは怖くないよ！初心者支部のすすめ

矢羽田春奈(祈織)

皆さんこんにちは。初めましての方は初めまして。

矢羽田春奈と申します。SNSでは「祈織（いのり）」と名乗っています。

今ではAWS界隈を中心に様々なコミュニティに参加していますが、コミュニティ参加を始めたのは25年8月で、初心者支部が初めてでした。

今回はJAWS-UG初心者支部について、実体験も踏まえて紹介していきたいと思います。

21.1 初心者支部とは？

AWSを学び始めた方や活用していくたい方をターゲットとした支部で、AWSへの理解を深められるだけでなく、初心者支部を卒業して他の支部へ巣立つためのお手伝いもしてくださる支部です。

初心者支部単独でのイベントもあれば、他の支部とのコラボ回もあります。

内容はLTだけでなく、ハンズオン会や彩の国埼玉支部とのコラボ回ではAWS BuilderCars体験会も実施されていました。

初心者支部にはつよつよエンジニアの参加者もいらっしゃるので、AWS初心者でなくとも楽しめる支部です。

21.2 JAWS-UGとの出会い

私が初めてJAWS-UGの勉強会に参加したのは、25年8月とかなり新参者です。実はそれより前からJAWS-UGの存在は知っていましたが、まだ全然知識がなかつたので参加する勇気がありませんでした。それが25年8月、Qiitaで調べ物をしていたら、おすすめ記事に初心者支部運営のTsukasaさんが書かれた「AWS完全初心者がAWS初心者になった話」という記事を見つけ、「JAWS-UGに参加した」と書かれていました。

その瞬間、「JAWS-UGって初心者でも参加していいんだ！」と感じ、勢いで初心者支部勉強会の参加申込をしました。

これが自分にとって大きな一歩であり、運命を変えるきっかけとなりました。

記事はこちら https://qiita.com/tks_1128/items/cd9475917e83ccdf8828

21.3 勉強会の参加を重ねて

初めて JAWS の勉強会に参加した際、ただ聞いてメモするだけでなく、Twitter 上でタグ付けして呟き、アウトプットする文化に驚きました。

当時、技術系の Twitter アカウントを作ったばかりでしたが、初心者なりにたくさん呟いてアウトプットしていました。

最初は誰も知り合いがいませんでしたが、この初参加がきっかけで SNS で繋がりができる嬉しさを知り、モチベーションの高い人が多く、JAWS 楽しい！と思える経験になりました。

今では勤務地から会場が遠くても、初心者支部を中心に勉強会に毎月参加するようになりました。

21.4 人生初登壇を迎えて

何度か勉強会に参加していくうちに、登壇に挑戦してみたいという気持ちが芽生えました。

しかし、私は CLF 程度の知識しかなく、知識が浅い人間が LT していいのか、人前で話すのは苦手…と、挑戦したい気持ちと不安な気持ちが入り混じっていました。

やってみたい気持ちに気づいてくださったのか、「登壇してみませんか？」と何度も声をかけていただきました。

最初にお声掛けいただいた時は、資格試験を直前に控えていたためお断りしましたが、試験が終わったら年内に必ず登壇することを目標にしました。そして 25 年 11 月、大好きな JAWS-UG 初心者支部で人生初登壇を果たしました。

当日はとても緊張しましたが、見届けてくれる知り合いが何人かいたことや、勉強会の最初に拍手の練習をしてくださったこともあり、反省点はありますけれど、良い登壇経験を迎えられたと思っています。

21.5 おわりに JAWS は怖くない！

私は、参加経験のある方のブログを読むことで背中を押してもらったおかげで、JAWS に参加しようと行動できました。

今度は私が、知らないところで誰かの背中を押せたら嬉しい限りです。

AWS の知識が少なくとも、AWS に興味があれば楽しめる場所だと思っています。

私の紹介文を読んでくださっている方で、JAWS に興味がある方は、ぜひ初心者支部に参加してみてください！きっと温かく迎えてくれるはずです。

著者紹介



祈織（矢羽田春奈）

X : <https://x.com/inorinori>

Zenn : https://zenn.dev/inorinnori_62

今年8月からJAWSを中心にコミュニティ活動をしているインフラエンジニアもどき。

好きなものは料理とプロ野球観戦、ご飯屋さん開拓、世界地理、文房具など。

第22章

歴史を知る機会になる！Storage支部

高野(石原晶子)

初めてオフライン支部で参加した Storage 支部の紹介をさせていただきます。
Storage 支部の Connpass ページ：<https://storage-jaws.connpass.com/>

22.1 Storage 支部とは？

Storage 支部とは、AWS 上で「ストレージ」を活用するための議論や情報発信をしていくコミュニティです。EBS や EFS を始めとした OS 領域に関係するサービス、S3 のような大容量ファイル置き場、StorageGateway、AWS BackUp などの運用に便利な関連サービスなど、Storage ONLY ではなく、関連サービスも含め幅は多岐にわたります。つまり実は色々な支部と相性が良いです。

2025 年は私が運営している初心者支部をはじめ、コンテナ支部、BigData 支部とコラボされています。

22.2 歴史に思いを馳せることができる

最初に General Availability (GA) したサービスである S3 を歴史に持つ関係か、「S3 の Update 歴史」や「EFS の Update 歴史」など、歴史を振り返る LT 登壇が結構ある印象です。私は Storage 支部に参加するまで、S3 の誕生日など知る余地もありませんでした。過去を知るとそのサービスの深み？を知ることができた気になって、すごく楽しいです！

「FSx for OpenZFS」というサービスで Solaris OS という懐かしの名前を聞くことができたり、懇親会では VM やテープディスク、オンプレ運用について話せたり、オンプレ運用民にとってはすごく敷居が高い支部だと思います。

22.3 専門支部、怖くなかった！

初めてオフライン参加、しかも専門支部でいきなり登壇をしたのですが(#3 参照)、その時の登壇ネタはなんと、「Storage 有識者に教えてもらいたい！ こういう悩みがあるのですが教えてください」でした。傾向を考えずにいきなり参加者の力に頼るという……今考えても酷い気がする登壇ですが、強つよ Storage/AWS に

する有識者がいらっしゃったおかげで、より良い案を持ち帰ることができ、のちのシステム検討をよりよく進めることができました。JAWSにハマるきっかけになった支部参加でした。

その節は登壇快諾をいただきましたhirosys師匠、藤原さん、ありがとうございました。

皆さんも専門支部、教えて欲しい！という気持ちで飛び込んでみると楽しいかもしませんよ！飛び込んで教えてもらいましょう！（教えてくれLT登壇の際は念のため許可は貰いましょう！）

著者紹介

高野（石原晶子）



X : <https://x.com/takano0131>

Qiita : <https://qiita.com/takano0131>

所属 : JAWS-UG 初心者支部

2025 AWS All Certifications Engineer

すきなもの : Transit Gateway フローログ、同人誌書くこと

第23章

社会人一年目がオススメするJAWS-UG DE&I 支部

山本 瞳巳（タレカツ）と申します

今年の四月に社会人になってから、様々なJAWS-UGのイベントに参加してきました。

そんな社会人一年目の私が、誰にでも、特に初心者の方にもオススメしたいJAWS-UG DE&I 支部を、僭越ながら紹介させていただきます。

23.1 DE&I 支部とは

DE&Iとは、多様性・公平性・包括性の英語の頭文字をとった言葉です。

多様性を重視し、性別や人種・思考に関わらず、誰もがみんなで共存・尊重し合うといった点を掲げて活動されおり、みんなが平等で同じ目線で学べる場を提供されています。

また、元々はJAWS-UG関西女子会として活動されていたため、運営は女性の方が多いです。

そのため、なかなかコミュニティに参加しづらいと考えている女性の方でも参加しやすいのではと思います。

大阪を中心に活動されており、基本的にみんなが気軽に参加できるようなイベントを開催されています。

23.2 どういったイベントがあるのか

DE&I 支部では基本的にLTがメインではなく、他の取り組みをされていることが多いです。

これまで私がDE&I 支部で参加したイベントを紹介します！（下記のイベントの最後に、数枠ですがLTの時間もありました）

23.2.1 ハンズオン

ハンズオンでは一人で進めるのではなく、みんなで一緒に取り組む雰囲気が特徴的です。

参加者同士で話し合えるような雰囲気があり、困ったことがあってもすぐに周りに聞けるため、一人でやるよりみんなで勉強したい方や、AWS触り始めの初心者の方におすすめです。

私も参加したときは、周りの人に困ったことがあった際に相談しながら進めました！

23.2.2 スキルパーティー

スキルパーティーは数人でAWS認定の試験問題を解くことを行います。

選択肢がなぜ正解なのか、不正解の選択肢がなぜ間違いなのか、数人で話し合いながら進めることで、ただ解くだけではなく本質的な理解に繋がります。

特に現在資格試験の勉強をしている方にオススメです。資格試験に着目した回なので、一緒に解いている方に現在試験勉強で困っていることがあった場合も相談しやすいと思います！

23.3 オススメポイント

23.3.1 みんなで一緒に行イベント！

イベントの部分でも書きましたが、DE&I支部ではみんなで一緒に取り組むイベント内容になっています。

勉強会の中でも周りの人たちと数人で進めたり、みんなで一緒に行うようなイベントのため、勉強会の最中に自然と交流を深めることができるのでないでしょうか！

23.3.2 自己紹介タイム

DE&I支部では、全員に対する自己紹介の時間が最初にあります。交流のないところから他の参加者と話すのは難しいかもしれないですが、自己紹介があることで話題も作りやすいと思います！

初対面でも周りの人と交流しやすい様な取り組みは、とてもありがたかったです！

23.4 さいごに

私が初参加した支部で、ここまで JAWS-UG に没頭するきっかけとなった支部です！

ぜひ大阪で AWS コミュニティのイベント参加を検討されているなら、足を運んでみることをオススメします！

著者紹介



山本 瞳巳（タレカツ）

X : https://x.com/tarekatsu_eng

Qiita : https://qiita.com/tarekatsu_eng

この半年間で 20 以上のイベントに参加してきましたが、どの支部も勉強になり楽しめるイベントが開催されています！

AWS に興味のある方はぜひ JAWS の勉強会に参加してみることをオススメします。

第24章

JAWS-UG 横浜支部で人生初のLT登壇を経験して

深津 新太郎 (@shin_fukatsu)

今ではいろいろな支部のイベントに参加して、登壇もさせていただいている私ですが、そのきっかけをいただいたJAWS-UG横浜支部に御礼の意味も込めて紹介レポートを書かせていただきます。

JAWS-UG横浜支部 <https://jawsug-yokohama.connpass.com/>

24.1 初めての登壇までの道のり

オフラインイベントに参加しても、一人で参加していて誰かとなかなか話せない、参加していて一人だとどうしようと不安になることがありますよね。私もコミュニケーションを上手に取れる人間ではないので、いつも不安を感じていました。

一方でコミュニティという場で会社の垣根を超えて人と人が繋がっているのを見て、とてもいいな、自分も入りたいなど感じていました。でも自分から話しかけるのもきっかけをどうしようか、自分から話しかけにいくのが難しければ、きっかけを作って話しかけてきてもらうのが良いのではないか。きっかけは・・・よし、試しにLT登壇してみよう！と思いついたところから始まりました。

当時、re:Inventという年に一度ラスベガスで開催される大規模なAWSカンファレンスに参加する予定だったので、帰国後に現地で学んだことを話せば、イベントに参加している方々に気に止めてもらえるのでは？と思い、私は人生初のLT登壇の申し込み先を探しました。スケジュール等を考えて、最終的に選んだ場所が、JAWS-UG横浜支部で開催された「AWS re:Invent 2024 宇宙一早い re:Cap」というイベントです。

帰国翌日の夜に開催されるということで、名前の通り「宇宙一早い re:Cap」です。移動中の飛行機の中で必死に登壇資料を作成していたことを今でも鮮明に覚えています。時差ボケと疲労の中での資料作成は大変でしたが、re:Inventで得た新鮮な情報を早く共有したら、どういった反応が返ってくるだろうかというワクワクした気持ちが私を突き動かしていました。

5分というとても短い時間でしたが、私にとってはとても価値のある重要な5分間でした。登壇後、懇親会で色々な方からお声掛けをいただきました。共感を得た部分についてお話をいただきたり、実際どうでしたか？といった現地での反応について質問をしてくださる方もいて、登壇して良かったと改めて感じました。

24.2 10年の歴史を持つコミュニティの温かさ

JAWS-UG 横浜支部は10年以上の長い歴史を持つコミュニティです。そんな歴史あるコミュニティが、新参者である私のLTを温かく受け入れてくれたことに感謝しかりません。ちなみに、私は横浜とは全く縁がありません。仕事も地元も、住んだこともない土地です。それでも個人参加で飛び込んだ私を迎えてくれました。会社の同僚がいるわけでもない、完全にばっち参加でしたが、全く孤独感を感じることはませんでした。

24.3 素晴らしい開催環境

当日の会場はヤマハ発動機さんのYAMAHA MOTOR Regenerative Lab（リジエラボ）という共創スペースをお借りしており、とても綺麗でおしゃれな空間でした。こういった他社のイベントスペースを訪問できるのも、コミュニティ活動ならではの魅力だと感じました。普段は入ることのできない企業の施設を見学できるのは、技術者として非常に刺激的な体験にもなりました。

24.4 継続的な学びの場

JAWS-UG 横浜支部では、LTイベントだけでなく、積極的にハンズオン会も開催されています。実際に手を動かして学べる機会が豊富に用意されているのは、技術力向上を目指す参加者にとって非常に価値のあることです。私自身、初回のLT登壇後も何度か参加させていただいている。一度参加すると、その居心地の良さと学びの多さに魅力を感じ、自然と足が向くようになりました。

また、この経験を通してコミュニティ運営に携わりたいなと思い、居住地である埼玉県でJAWS-UG彩の国埼玉の立ち上げの際に参画させていただくことになりました。

24.5 初心者の方へのメッセージ

これからJAWS-UGに参加を検討している初心者の方には、まずは顔を出してオフラインで参加し、雰囲気を感じてみることをお勧めします。無理に登壇からスタートする必要はありません。また、ばっちり参加になることを心配する必要もありません。他にもきっと一人で参加している人はいますし、コミュニティの皆さんのが温かく迎えてくれます。私自身がその証拠です。

技術コミュニティは、学びたい気持ちさえあれば誰でも歓迎してくれる場所です。JAWS-UG横浜支部での経験は、私のエンジニア人生において大きな転換点となりました。皆さんもぜひ、勇気を出して一步踏み出してみてください。

著者紹介

深津 新太郎



X : [@shin_fukatsu](https://twitter.com/@shin_fukatsu)

Qiita : [@sh_fk2](https://qiita.com/@sh_fk2)

JAWS-UG 彩の国埼玉支部運営

AWS Community Builders 2025 (Cloud Operations)

AWS Certifications x 15

現在はオンプレシステム更改のPMを担当

re:Invent 2022-2025参戦

第25章

JAWS FESTA & JAWS DAYS 参加レポート

保 龍児（エイミ/amixedcolor）

いち参加者として、楽しい思い出のあるJAWS FESTAとJAWS DAYSについてのレポートです！筆者の参加ログは以下のようになっています。

表1: 参加ログ

イベント名	登壇	ボランティアスタッフ
JAWS FESTA 2024 in 広島	1件	○
JAWS DAYS 2025	-	○
JAWS FESTA 2025 in 金沢	2件	○

筆者は2024年5月からAWSを扱い始め、2024年7月のAWS CDK Conference Japan 2024が初めてのユーザーグループのイベント参加でした。CfpをJAWS FESTA 2024 in 広島に出したところ、ありがたいことに採択いただき、本イベントにて初参加＆初登壇＆初ボランティアを務めました。当時は前夜祭から参加し、ほぼ全員が初めましての中緊張しましたが、あたたかく迎え入れてくださいました。

そんな参加者による参加レポートを通して、魅力を知っていただき、参加したことのない方が行きたくなるような章を目指します。

25.1 JAWS FESTAとは？

初めて耳にする方もいらっしゃるかもしれないので、まずはJAWS FESTA自体について紹介します。

JAWS FESTAとは、JAWS-UGによる全国規模の交流イベント2つのうちの1つであり、年に一度日本各地で開催されているイベントです。これまで、2013年の大阪を皮切りに、仙台、名古屋、福岡、愛媛、札幌、広島、金沢と開催されてきました。

毎年10月ごろに開催されています。

後述するJAWS DAYSは東京固定ですが、毎年開催場所が変わるJAWS FESTAは、開催される地域の特色が色濃くです。また、カンファレンス翌日の遠足も特徴的で、せっかく訪れた地域を余すことなく楽しむことができます。

筆者は2024年開催のJAWS FESTA 2024 in 広島、2025年開催のJAWS FESTA 2025 in 金沢に参加しました。

25.2 JAWS DAYS とは？

続いてJAWS DAYSについてです。JAWS DAYS 2025のWebサイトでは以下のように紹介されています。

JAWS DAYSは主催JAWS-UG、後援アマゾン ウェブ サービス ジャパン合同会社で行われるJAWS-UG最大のイベントです。全国のJAWS-UGメンバーが中心となってイベントの企画、準備を行い、最新技術からビジネス、ライフスタイルなどAWSに関わる幅広いテーマでセッションが予定されています。

AWS初心者から上級者までのエンジニア、経営者や人事、マーケティング、エンタープライズからスタートアップ、中小企業など職種や業態・会社規模を問わず、たくさんの方に参加いただけるイベントです。

毎年3月ごろに開催されています。

筆者は2025年開催のJAWS DAYS 2025に参加しました。

25.3 思い出を話す前に

思い出のすべてを記そうとすると、とても長い章になってしまいますので、厳選して、思い入れ深いトピックについて書いていきます。

25.4 JAWS FESTA 2024 in 広島での思い出

25.4.1 前夜祭

JAWS-UGのみなさんの9割以上の方が初めてでした。正直に話すと、特に参加当初は浮いてしまっていると感じていました。しかし、話しかけるとどなたも優しく迎え入れてくれて、徐々に緊張がほぐれていったのを覚えています。

25.4.2 カンファレンス

ボランティアスタッフ：セッション担当

ここで同じセッションを担当した方との交流はかけがえのないものでした。どうしても少し話しただけでは（当然ですが）親密度が低くなりますが、1日、トラブルも一緒に乗り越えながら活動したことは着実に関係性の構築に寄与しました。この出会いをきっかけに色々な方を紹介していただいたりと、「ボランティアスタッフと一緒に活動する」ことは自分にとって参加しやすさが大きく上がるポイントでした。

登壇

AWSコミュニティにおいては筆者にとって初めての登壇でした。なんとこの登壇で発表した内容が、実際に1社で採用されました。そのことを聞いた時はとても驚いたとともに、コミュニティへ貢献できたことを非常に嬉しく思いました。Japan AWS Jr. Championsを目指していると公言して活動し、応援いただいたことも印象的です。

25.4.3 懇親会

Japan AWS Jr. Championsを目指していることを話しながら交流を深めました。徐々に顔見知りの方も増えて、自然体で話せるようになってきていたと思います。

25.4.4 酒まつり

街中へ繰り出し、何人かと一緒に美味しい日本酒を飲みました。ここでも同じセッションを担当した方と周り、交流を深めました。

25.4.5 遠足

宮島・厳島へ向かいました。半日かけて一緒に行動した皆さんと、懇親会で交流する以上の密度ある交流ができました。広島風お好み焼きを作るお好み焼きハンズオンにも参加し、とても美味しかったことを覚えています。

25.5 JAWS DAYS 2025での思い出

25.5.1 お祭りトラックボランティアスタッフ

通常のトラックとは少し経路の違う、写真撮影やガチャガチャもある「お祭りトラック」のボランティアスタッフを務めました。連帯感を持って活動し、全力で会を盛り上げられたことはいい思い出です。2026年もボランティアスタッフをやる予定ですが、ぜひまたお祭りトラックにアサインされたらいいなと思っています。

25.5.2 企業サポーターブース

多くの企業サポーターの皆さんがいらっしゃっており、色々なノベルティをいただきました。普段利用させていただいているサービスを運営している企業さんもいらっしゃっていて、良い交流ができました。

25.6 JAWS FESTA 2025 in 金沢での思い出

25.6.1 カンファレンス

キーノート聴講

昨年はセッション準備をしている最中でキーノートを聞くことができませんでしたが、今年は聞くことができました。令和6年能登半島地震に関するお話をいろいろな角度でお伺いしました。お恥ずかしながら自分はこの震災について疎く、ここで聴けたのはとてもありがたい機会でした。

登壇1：自身のCfP

昨年に引き続き、ありがたいことに採択いただきました。さらに、今年はなんと会場40席程度がほぼ満席になる大盛況っぷりで、少しでも多くの方にお届けできたことを嬉しく思います。

登壇2：Jr. Championsコラボセッション

北陸在住の若手の皆さんとコラボする形で、パネルディスカッションを行いました。パネルディスカッションのモダレーターを務めるのは初めての経験でしたが、会場の皆さんからのリアクションが非常に多く、楽しくスムーズに進行できたことが印象的です。対談中余裕のある時に会場の皆さんの様子を見たりもしましたが、あたたかい表情でにこやかに見てくださっていて嬉しかったです。

25.6.2 懇親会

ここでどうしても述べたいのが、1年前「Japan AWS Jr. Championsに選ばれたい」と言っていたことを覚えてくださっていた皆さんからの反応です。複数の方とお話ししましたが、どの方も、あのとき目指していて、今それに選ばれてまたここにいることを、感慨深いとおっしゃってくださいました。まるで見守ってくれていたかのようで、とてもあたたかい気持ちになりました。

25.6.3 遠足

能登まで訪れ、とても美味しい海鮮をいただきたり、震災の痕を目の当たりにしました。全国各地で開催されるイベントだからこそ、その地域の特色のある体験をできることを嬉しく思います。

25.7 まとめ

かいつまんでの思い出になりますが、私がJAWS FESTAとJAWS DAYSで体験したことについて述べてきました。AWSコミュニティのイベントの中でも大規模であるこの2つのイベントは、参加することで得られることが多いと思っています。

セッションの聴講による知見はもちろんのこと、交流から生まれる出会いは数多くあります。特に、まだ参加したことのないコミュニティイベントには、出会う人がたくさんいると思います。

ぜひ一度、JAWS FESTAやJAWS DAYSに参加してみてはいかがでしょうか。

著者紹介



保 龍児 (エイミ/amixedcolor) [X@amixedcolor](https://twitter.com/amixedcolor)

株式会社Relic エンジニア

2025 Japan AWS Jr. Champions

主にAWSコミュニティとアジャイルコミュニティで登壇・運営など活動しています。

新規事業開発を専門に行う会社でエンジニアをしており、自社SaaSの開発リーダーでもあります。

好きなトピックは、アジャイル・スクラム・新規事業開発・AWS・完全没入型仮想現実です。

趣味は、漫画・音楽（聴く・歌う）で、漫画はこれまで数千作品読み、よくライブにも行きます。

第26章

番外編：JAWS-UGの従兄弟？E-JAWS とは

E-JAWS とは Enterprise-Japan AWS user group の略で、2013年11月に発足しました。エンドユーザーに限定したクローズドな場として、AWS 利活用のための実践的かつ具体的な方策を検討し、企業競争力強化の源泉となりうる IT システムの新たな姿を検討していくことを目的としています。

現在 350 社以上の会員企業、1000 名弱のメンバーが参加しています。

E-JAWS は JAWS-UG とは運営方針や組織が異なるユーザーグループですが、JAWS DAYS での連携など AWS ユーザーコミュニティとしての連携を行っています。

また、JAWS-UG と違う点として、企業としての入会が必要であること、入会に関してはエンタープライズ企業に属しており AWS パートナー企業や SIer / CIer でないこと、という条件を満たしている必要があること、E-JAWS のコミッティメンバーによる審査があります。

クローズドな場としているため「謎の AWS ユーザーグループ」と呼ばれたこともあります。

26.1 E-JAWS に参加する意義

いわゆる "エンタープライズ" な企業にいると、悩んでいることや自社の知見を外部に向けて発信すること自体が難しい場面が、企業によってあると思います。

E-JAWS の場合、そこを「クローズな場」とすることで話しやすい環境を作ることを目的として立ち上げられました。

総会や分科会では参加者全員が発言する場があり、知見の共有はもちろん、日々の課題、疑問、悩みに対して「うちではこうしたらうまくいったよ」「こういうアプローチをしてみてはどうだろう？」といったアイデアやアドバイスが出てくることもあります。

同じ AWS を利用している企業同士、「クローズドな場ならでは」のリアルな情報や意見の交換ができる事、そして他社の CIO や情報システム部門の責任者といった方達との交流は、自社での AWS 利用ならびに自分のキャリアに関してなんらかの「お土産」があるはずです。

26.1.1 こんな方におすすめ

エンタープライズ企業において・・・

- ・社内で AWS 導入・活用を推進している情報システム部門の方
- ・クラウド活用の社内展開や組織づくりに悩んでいる方
- ・他社の CIO や情報システム部門の責任者と情報交換したい方
- ・エンタープライズ企業ならではの課題について相談したい方

26.2 E-JAWS 活動内容

E-JAWS の年間を通しての活動は以下となります。

- ・総会
 - ・半期に一度、春と秋に開催
 - ・新規会員企業による自己紹介プレゼン、既存会員発表
- ・E-JAWS カンファレンス
 - ・年に一度開催される、外部に開かれたイベント
 - ・会員企業でなくとも、E-JAWS にご興味をお持ちのエンタープライズ企業の方であれば参加可能
 - ・外部講師によるセッション
 - ・パネルディスカッション
 - ・会員企業による発表
 - ・E-JAWS の雰囲気を知りたい方、入会を検討されている方にもおすすめです
- ・分科会
 - ・2~3ヶ月に一度のペースで開催
 - ・金融分科会
 - ・百貨店分科会
 - ・製薬分科会
 - ・人材育成＆クラウド推進体制（CCoE）分科会

26.3 分科会について

現在、4つの分科会がありますが、それぞれ以下の目的および対象者で開催をしています。

新しい分科会の立ち上げについては、明確な目的と幹事として定期的な開催が可能であれば、どなたでも提案できます。

26.3.1 金融分科会

組成の意義

- 金融ユーザー間でユースケースを共有し、AWS を有効に活用する
- 金融サービス固有の課題についてナレッジを共有し、解決することができる
- AWS より金融サービスに関連するサービスのアップデートを定期的に受けることができる
- AWS に対して、共通する改善点などの要望を伝える

対象

- E-JAWS の会員企業であって、金融サービス業、あるいは金融サービスを営む事業法人

26.3.2 百貨店分科会

組成の意義

- 百貨店ユーザー間にユースケースを共有し、AWS を有効に活用できる
- 百貨店固有の課題についてナレッジを共有し、解決することができる
- AWS より百貨店に関連するサービスのアップデートを定期的に受けることができる
- AWS に対して、各社に共通する改善点などの要望を伝える

対象

- E-JAWS の会員企業であって、百貨店業を営む事業法人

26.3.3 製薬分科会

組成の意義

- 製薬業界のユーザー間でユースケースを共有し、AWS を有効に活用する
- 製薬業界固有の課題についてナレッジを共有し、解決することができる
- AWS より製薬業界に関連するサービスのアップデートを定期的に受けることができる
- AWS に対して、共通する改善点などの要望を伝える

対象

- E-JAWS の会員企業であって、製薬業を営む事業法人

26.3.4 人材育成＆クラウド推進体制分科会

組成の意義

- クラウドの Adaptation（適用）が進んでいると思われている会社でも、内部では実は非常に苦労をしていて、各社で工夫をして人材育成や体制構築、ルールづくりなどを進めているという声を耳にします
- 内製化するかに関わらず、クラウド人材が社内に必要という事実は変わりません。必要なクラウド人材をどのようにして社内で育成していくのかなど、分科会を通じて体制づくりや人材育成方法、クラウド運用のベストプラクティスなどにも触れて議論できればと考えます

対象

- E-JAWS の会員企業であること
- CCoE を組成し人材育成に積極的に取り組んでいる事業法人
- クラウド活用の現場の担当者を中心に、アーキテクトの育成に悩んでいる現場責任者
- 技術人材の育成に悩んでいる管理者
- 外部ベンダーへの丸投げに危機意識がある経営者などからの参加も歓迎します

26.4 E-JAWS のグランドルール

26.4.1 Give First !

Give and Take ではなく Give First の精神で

26.4.2 泥臭い苦労話、失敗談大歓迎！

あなたが汗をかいた分、他の誰かへの知見になります

26.4.3 No SNS

E-JAWS はクローズドな場とすることで、普段は話せない内容を話しやすくするようになっているため「心のNDA」というルールがあります。

SNSへの投稿や会社名を特定できる形での外部発信は控えるというものです

26.4.4 ネットワーキング

オフライン参加をした際はディスカッションと意見交流会でぜひ他社の方達と交流を深めてください！

26.5 E-JAWS コミッティについて

E-JAWS コミッティは E-JAWS の運営を行う目的として会員企業のメンバーによって構成されています。

会員企業から選出及び立候補による会長およびコミッティメンバー、アマゾンウェブサービスジャパンによる事務局によって構成されています。

任期制をとっており、最長2年間の任期となります。

26.6 おわりに

「AWSは使っているけど、もっと活用を広げたい」「セキュリティやガバナンスの運用ルールをどう整備すべきか悩んでいる」「他社はどうやってクラウド人材を育成しているんだろう」

そんなエンタープライズ企業ならではの悩みを共有できる場が、E-JAWSです。

業界特有の課題は分科会で、クラウド人材育成や CCoE 構築の悩みは人材育成 & クラウド推進体制分科会で、同じ立場の方々と具体的に議論できます。

第26章 番外編：JAWS-UGの従兄弟？E-JAWS とは

まずは E-JAWS カンファレンスで雰囲気を感じてみてください。会員でなくとも参加可能です。

入会については、貴社を担当している AWS の営業担当者へお気軽にお問い合わせください。